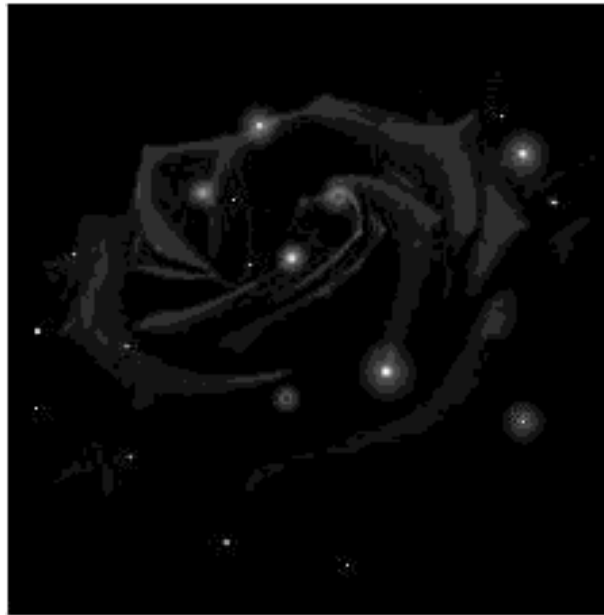

現実 痛み

私たちがトゥルディ・ダイを書くときだけ、力強い文章になる！今回は読んで感じる事ができた。そして、現実は痛かったが、それはそこにあり、私たちが可能な限り最善の方法で毎日対処しなければならないのは、彼女と一緒になのだ！

書くことが真実を笑うときだけ、書くことは多くのことを見ることが出来る！この時、私たちは読み、そして感じる...そして現実は痛い、それはそこにあり、私たちが日常的に対処しなければならないことなのだ。
DU D8 Wlgazes mD2-taiv、poivもエレベーターvabeniたくさん！



心臓の鼓動の数よりも、君を愛している...

私もあなたも同じ愛の空気を吸っている。

私はあなたの世界を彩るすべての色...

私のために、あなたのために、そして私を愛する人たちのために。

ある日、あなたは私の心に根を植えてくれた。今日、その木は生命への愛と呼ばれている。それは決して根こそぎにされることはない。

変圧器

現実を変える輝かしい力のバ
ランス。

電気パネル

コントロール・ポジションと
ユニバーサルカレントの行き先

明るい日差し

深みを照らす

地上の自然の。

光源

生命と光の泉の中で、雫のよ
うに地面に落ちる。

ワイルド・ウェスト

ひたすら異常の動きを探す。

電気ショック

うるさい神経が点滅

心臓に電気ショックを与える。

電磁波

思いは去来する

波のサイクルをうねりながら回る。

凶

電流

この電流が私の体を駆け巡り、

波の回路へと私を連れて行く。

電気インパルス

電氣的に循環するインパル

スに揺さぶられる。

真実の光

衝動的に発見したときこそ、

真実は輝きを増す。

ブラックアウト

苦悩に満ちた声は、存在する

という光り輝く感覚によって

沈黙する。

光るキャンドル

蓄積された痛みは、溶けた

ロウによって発火する。

電動ドア

触ると優しく開くが、開く暇もなく閉じてしまう。

電動センサー

ダークエネルギーで振動する
憎しみの根を断つ感電死

発光する煙に包まれ、記憶
を消し去る。

電磁乱流

それらは無限の電磁気によって
、騒然とした心の中で攪拌される。

電光石火の光線

エネルギーッシュな心を麻痺させる
稲妻のように。

不吉なライト

それぞれの存在は、不吉な閃
光を放っている。

点滅ライト

点滅する光に悩まされる
直流電流の通過。

不透明な光

不透明なライトは暗い光の中
で幻想的な存在を照らす。

電線

電線が体中を走り、エネルギーで振
動している。

第10回 電気回路

10周目に向かって登る
そして、停電が発生する。

電氣的落下

私は恍惚とした感覚に包
まれた。

ライトカット

シャープで明るいエコー、
光を放ち、壊れた声をとらえる。

きらめく闇

歩く生き物フラッシュ

目の向きが不明瞭な

蛍光

花は咲き、雷のように四方八
方に落ちる。

「影を落とす

刺すような稲妻が眩しい

他人の感覚や視線を楽しむ。

白熱

あなたの魂に深いアークが交差

し、電極にしがみつく。

ダイナミックショックと白熱ショック。

感電しやすい

打ち付ける閃光のように

感情の不調和

強く、決然とした光を求めている。

黄昏の不在

明かりの中でそっと丸くなる
稲妻で優しく私を喜ばせてくれる。

回想

私は明るい日に夢中になって目覚め、暗闇か
ら抜け出す準備をする。

光の、私はフォースとエネルギー
を恒星共同体全体に分配する。

脅威の光

この療養の灯が脅かすのだ、
私たちを苦しめ、危険を予感させる。

プレゼンスライト

静かな瞬間に寄り添う光は、直面することがで
きず、密かに威圧する。

レッド・ライト

強烈な赤い光が神経を加速させ
る。

ショック

突発的で汚染された衝撃が、インパ
ルスなしに心を侵す。

カンパニー・ライト

表に出ないもの、会社の光を
感じないものを照らす。

サンダー

雷が鳴り響き、砕け散る音が快樂を
渴望する。

強力な光

強力なライトによる非難
声によって指示される以外の人生

畜生

強力な透過光線のように、結びつ
けることのできない絆を断ち切る
。

フロストライト

良心を曇らせる
濃密な光線に貫かれたとき。

強烈な光

ブラックライトの霧が強烈な光を放つ。

ルミナス・コズミック

魂の記憶喪失を癒す、深く浸透する宇宙

のように。

光の力

光の癒しの力は、絶望の淵で理性のフィラメントを照らしてくれた。この光は私を日常生活の恍惚とした流れへと導き、暗く無目的な未来を照らした。

だから、光に癒され、光に動かされ、私は自分自身を癒し、厳しさと厳密さの熱いどん底から抜け出した。しかし、この光が私の過去を照らすかどうかはわからない。

つまり、エネルギーの両極、2つの極があるということだ。私は、暗くて呪われた側ではなく、ポジティブで癒しの側に触れた。この光は、感情の明瞭さと、即物的で衝動的な黄昏時の合理性から発せられ、意味の変遷や不透明さはなく、感情を埋め込んだり説教したりすることもない。

光は強く、強烈で、その光線で逆らう者すべてを焼き尽くす。光、感覚、感情、生きる喜びに加わり、地球上で私たちを駆り立て、束縛のないエネルギーを放つ力を存分に楽しんでください。いつか光は消え、エネルギーと衝動的な力はなくなるのだから。あなたが持っている才能を活用し、青い光線を切るようにその力を発揮させ、光のない影のように私たちを苦しめる、生きられない息苦しさや悪意に満ちた突き刺すような思考から自分を解放してください。

つまり、あなたの中には光があり、雷があり、嵐があり、エネルギーがあり、そして光がある。本来は、最も原始的な形の、澄み切った純粋な光であり、私たちを貫き、私たちに栄養を与え、時には私たちを燃やす火なのだ。そうやって人生は、世界からやってくるぼんやりとした無力な衝撃に耐える強さと活力を与えてくれる、まさに理性やエネルギーの感覚に対立する一過性の光でできているのだ。

それは私たちを威嚇し、奇妙な非難を突きつける。エネルギーなくして光はなく、すべてのものにはエネルギーがあり、すべてのものには光があり、動きがあり、流れがある。これは存在そのものであり、私たちを威嚇し、奇妙な非難で私たちを突きつけるが、それは直接的でなく、別のエネルギーと衝突する勇気がないため理解できず、むしろその光を消そうとする。しかし、それは存在し、姿を現し、視覚に浸透し、時間の沈黙を通して思考の明晰さを見せてくれる。そして沈黙を守ることによって意見を固め、他者がネガティブあるいはポジティブなエネルギーによって発信する無用な無能力を享受する。

ブルー・レイの光は威嚇するが、ブルー・レイのスピードで、そのエネルギーに運ばれたいと望む者は誰でも、そのエネルギーに迎え入れる。このエネルギーの変遷の中で、私たちが一瞬を体験することを妨げる、発散的ではなく妨害的な現実的エネルギーが立ちはだかる。雷は大きく揺れ、音波に影響を与え、超音速を生み出すが、それほど強力ではない。

光り輝く人々と真っ向から対立し、抑圧されるように、不透明な光は増え、現実を歪め、非現実に見える。しかし、架空の光も存在する。それが想像の光の力なのだ。

ブルーレイ

猛烈なブルー・レイが私の中に侵入し、そこから湧き出るエネルギーで輝いている。

偏見と不寛容に汚染された毛穴を、このブルーレイは直撃するだろう。

人工光

すべての存在が放つ光

恥知らずな作為に巻き込まれ、それが無邪気な作為に満ちていないのは難しい。

レーザー光

レーザー光は透過性があり、目に見えない。

それは洞察に満ちた光であり、観察者の手に負えない仮定と岐路の達人である。繊細で無害だが、先入観や考えを吸い込み、解毒剤で毒を中和する。

屋根裏ライト

この煙は心の光を横切り、方向性の定まらない心の中で引き裂かれた記憶のぼろ布に覆われている。と行動、つまり思考の流れを冷ます運動作用が、ゆっくりと、まとまりのない形で働く。

のんびりとした時間を過ごしながら、彼女はこう語る。そして、彷徨う電流刺激で脳を興奮させながら、脳のライトの中を広がっていく。

それは体内で強まり、催眠術のような、麻痺させるような光を放ち、まるで意味のない言葉の羅列のようだ。

これらのロフトライトは、高度なエンジニアリングを求める折衷的なルーツを持つ人々の心を魅了するだろう。

猿がいるところもあれば、屋根裏部屋だけのところもある、正面玄関を覆い隠す他の屋根裏部屋の明かり。この屋根裏部屋に、思い出や考え、要するに大義名分のない人生と一緒に入ることができたらと思う、

しかし、思い出がある。

いつまでも屋根裏を照らし続ける思い出、いつも開いているものもあれば、箆筥にしまっているものもある。

稲妻

熱を帯び、暗くなり、そして動かなくなり、沈黙する。しかし、それが鳴り響くとき、そのノイズは圧倒的で息もつかせず、生きていることの激しさを感染させ、他の光や照明の中に存在する。

もっと衝撃的だ。あなたの良心を消し去る稲妻は、雄弁なうめき声を発しながら、次のような事態を引き起こす。

行為の過失と滞在機会の喪失

この世に稲妻が落ちる瞬間。光の灰

勇敢で強力なアイロンの熱であなたに印をつけた灰には、次のような成分が含まれている。

あなたが忘れていない過去と遍在する未来からの光の灰によって、あなたの反抗心を呼び覚ます。その瞬間の衝動は中断され、ゆっくりと、涙ながらに、そして迸るように広がり、自制するようにと言い聞かせ、抑えきれない言葉の記憶に溺れ、光への渇きを溢れさせる光の井戸へとあなたを投げ込む。

快樂の光の中で

その光は私たちの中に入り込み、贅沢な洞察を与えてくれる、私たちを無数の憂鬱な快樂へと導き、沈滞した快樂の化学の不安へと導くが、停滞することなく、存在、感情、感情を照らし出す他人の快樂の無邪気な顔に刻印される。

驚きと輝きに満ちた喜びを享受する感情、

過剰な快樂によって引き起こされる収縮を和らげる。過剰な快樂は、私たちを他の感覚や快樂に向かわせる。

快樂の光については、後退も揺らぎもしない中毒性を発展させ、それを糧とする、

否認の快感から乱れた髪と衝突。催眠ライト

催眠術のような光の表情の中で感じ取れる感覚は、この光への中毒的な欲求を明らかにする感情の証人であり、私たちをその存在に活力を与え、信じるように駆り立てる。

私たちは借金も債権もなく、催眠術のような快樂に溺れる超越的存在の催眠生活のように淀むことなく、それに流されていく。

これらの悪癖は、慎みと怠惰にまみれた髪と眉を貫いている。奔放で純粋な反応は、光を所有し、光に養われ、加熱中の粘土のように集まったルースストーンに導かれたいという純粋な願望に向き合うものだ。

強烈な光

この強烈な光は、運動する異質な肉体の間を分裂し、電流がなくても、簡単に照らされる2つの道の間を揺れ動く。それは自給自足であり、私たちを養い成長させる全身的な催眠の苦しさで持続する。

意識的には、消灯してもなおパワーを発信するほど強烈な光だ。

サイケデリック・サンダー

サイケデリックな雷鳴が勇ましい雷鳴と絡み合い、私たちがこのサイケデリックな嵐に包まれたときに生じる異常性を持続させ、増強させる。

このシナリオでは、力もスケールもない、首尾一貫した光が放射される。それは、最も奇妙で最も深い心の片隅で反響し響き渡るブラックサンダーの異常さのための口実に過ぎないだろう。フェードし、共鳴し、秘密もなく動き、サイケデリックな光の世界を作り出し、創造する意志も単なる耽溺もなく、斜に構えた淀んだ色に染まった偏見に満ちた快樂から逃れようとする者、楽しもうとする者を苦しめる。

思考の断片の精神に浸り、目を掻いたり、ただ瞬きしたりするような刺激から遠く離れた、別の世界を想像するすべての人々。別の動きから疎外されたこの動きは、感動や興奮が何であるかという単純な事実にあらず、よそよそしくしている心に火をつけ、粉碎する。

雷はサイケデリックで、霊が顕在化することなく、霊が存在しないかのように追い払い、ボギーマンのような噂と強迫観念の並行現実を作り出す。ここでは、実際には存在しないにもかかわらず、奇妙な人格や前世からの同族を餌にする者はいない。

このように、非現実的なものにはすべて時間を超越した歴史があるが、何かが、何かを恐れている。この恐怖は、私たちを5次元の地平線、多角形と直線に運ぶが、超越的で神智学的な思考の半球を表す痕跡には影響されない。

アイデアは、抽象的な理性のフィラメントの上で花開いたり成長したりするものではない。衝動は、すでに見たキャラクターから生まれ、記憶され、模倣の動きやその場への適応、すべてが意識的で最小限の計算の上に成り立っている。計算がなければ、雷は現実であり、予測不可能である。

過去の光の中で

過去の影に生きる者たちが召喚され、彼方の死にゆく者たちが、差し迫ったハプニングの中で、現在進行形で天体に侵入する。

すべては、さまざまな強さの光り輝く事柄、エネルギー的な放射に集約され、過去とは結びつかない。

過去の瞬間過去の光は有害な放射線を発するが、瞬時、衝動的、瞬間的にスイッチを入れたい放射状の光を弱めることはできない。

過去は現在、瞬間、衝動と刻々と絡み合っているが、そのエネルギー的な流れや光輝に影響を与えることはない。私たちは常に、風を切り裂く恍惚電流の力強く澄み切った光に間に合い、光を放つ喜びや照らされる喜びを中心とした動きの意図を排除した快樂をもたらす。重要なのは、電氣的衝動を解き放つ強烈な電流のパワーや電圧であり、それは単純な視線を通して、過去の光、それほど強くない光、過去世からの放射を伝えるが、それらは、一瞬のうちに経験される仮面のない光の衝動の動きによって解き放たれる光の原理を導くものではない。

どの光も他の光より強くないからだ。それは放射線の問題であり、誰もが自分自身の純粋な光を持っていて、意志と想像力を渴望し、発展と創造のための純粋なエネルギーを持っている。

ルミナスマジックはその光に色があり、太陽的でエネルギーッシュなイエローの色合いで反射する。

実際、光はあまりなく、存在の病巣が残っているだけで、目に見えないものを客観化するためにバランスをとっているだけだ。つまり、それは存在せず、現実ではなく、私たちに気づきを与える強力なレイの果実なのだ。

しかし、意識とは何か？何が本当に意識的なのか、あるいは無意識的なのかは、それがどんなに理にかなったものであっても、具体化できない壁である。私たちは皆、瞬間に向かって進んでいる。先入観にとらわれた障壁を物質化し、乗り越えられない鎖だと主張するこの退廃は、実際には本当の障壁など存在しない。欲望と、意識の中に常に存在し、自分自身のためだけに確保されている無意識の光との間に障壁があったりなかったりするからだ。私たちは流れを考えるが、ここにも流れや衝動はない。そこにあるのは、過去の光の中で言われるように生きる、天空の航空宇宙生物の想像だけである。光には力や尺度があるはずだと多くの人は考えているが、光に干渉するのは誰なのだろう？光は触れない。

私たちは光を観察し、光が消えるまで見つめる。自

然光

このクリアで自然な光ほど一般的なものはない。順応、逆境、葛藤、単純な甘えは、態度や意識的な問題を蓄積するものとして作用するが、それほど深くはない。自然と光の間には衝突はなく、自然は私たちを取り囲み、快適で落ち着いた気持ちにさせてくれる。

空気、それは私たちを取り囲む自然の喜びであり、吹き、走るものであり、そして何よりも、軽く呼吸するのが好きな人にはソフトなタッチのものである。

原子カライト

強力なエネルギー源が私たちを変容と心理的変異で包み込み、私たちにこの核の力による衝撃を感じさせる。この生き生きとしたエネルギーの光は、超越的な存在である突然変異の光り輝くインパクトとともに成長する。突然変異を実際に経験することはないが、孔雀のように、私たちを行動へと導く理解された衝動に浸透する。このダイナミックで明確な爆発的放射の衝動。このようにして、私たちはエネルギー力の頂点に到達し、核剤となり、バランスを崩すことが不可能な光を修正し、解体する。変容、つまり放射線との関係において私たちを高め、力を与える変化ほど強力なものはない。

向精神薬ライト

魔術的な、あるいは調和的な方法で、これらの向精神的な光は着陸し、浮遊し、羽ばたき、私たちを魅了し、吉兆のように望ましい現実を変化させるが、その世界から戻るときには凶兆を暗示する。タイムマシンのように、私たちは現実の次元から離れ、空想の世界、非現実の世界、あるいは快楽の世界へと連れて行かれる。

このように、酸素供給にとって有害な現実を切望する他者の視点から見ると、感覚的な活動や暗黒のエネルギーという第三の次元が存在する。向精神薬の光は、さまざまな視点と官能的な次元で流れ、地歩を固め、それを切望する人々を惹きつける。

そこには散発的なエピソードが含まれる。自然そのものが光であるため、世界、光、現実の間に対立はない。

サンダー

苦く輝く亀裂のように、雷は荒れ狂い、透明で無定形の光の生存者を地球に送り込む。苦味の天体に避難し、この光と力の流れによって増強された制御不能の怒りを放つ。それは、光と従順な力を欠く闇の中で、これらの極悪な停電に侵されることを許す存在の光を燃やし、養い、エネルギーギッシュな雷のマグマで自らを温め、光の幸福を増強する。特異な存在の光り輝くビームの中の光の幸福。

発電機

愛を生み出す愛、あるいは愛を生み出す愛！

この非バーチャルな肉欲と、透明で熱心なキスという感情的な絆を煽るものは、感情的で電氣的な絆のエネルギーを発達させるために不可欠なものである。

このジェネレーターは、朝食であれ、夕食であれ、日常生活のエネルギーを支える水であれ、日々のルーティンの中に隠れた顔を持つエゴや個性に栄養を与える。

仮面や涙ぐましい思いをすることなく、私たちは愛のエネルギーの現実には溶け込み、あるいは、決して切れることのないつながり、腐敗することのない、しかし常に真実であるエネルギーに養われながら、生きている愛と孤独の代表であり、印象的なまなざしの電撃的で突き抜けたエネルギーの愛に溶け込む！

常に刺激的で、欲望に飢えた視線と、単調な日々によって生み出された忍耐力、そしてこの電氣的な環境では何も表現しない斜めの顔。現実の生来の大胆不敵なエンジンのイマジネーションに飛び込んでみよう。動き回る人生にとって不可欠な接触、存在するかどうかのコンセンサスという現実のエンジン、しかし意識的な欲望にはほとんど気づかないが、そこにある他の現実にはむしろ気づかない！

即座の機会という意味で常に存在し、手段は水のようなものではない。そうでなければ、利用可能な手段や資源の愛の生成者の思考に滑り込む。生成する愛に関しては、それは常に、まさにこの見下す存在で制御された、他のあらゆる非仮想的な手段に接続され、潜んでいる。だからそれは、あなたがいつも窒息させたいと思っている魂のかけらの、常に存在する顔の中に生成し増殖する喜びから、自分自身を疎外することはできない。

エネルギーはひとつであり、その充足感において多文化であり、さまざまな現実を展開しているからだ。私たちはバーチャルであり、イマジナリーである。他者がいるとき、あるいは鏡の中にいるときだけ、私たちは中性子エネルギーの精神の新しい調整エネルギーを隠す。ルミナス・ドラゴンは光を放つことができる！

電流

私たちの存在を毎日流れる電流は、私たちにエネルギーと活力を与え、私たちを明るく活動的な存在へと変える。そう、活動的なのだ。なぜなら、そこには光の力が宿り、あるいは二元論的で抑圧的な現実と直面する病的で衰弱させる抑圧があるからだ。

否定的な極の流れが潜在意識の深い痛みに浸透し、批判的で否定的な方法で人格を縮小させるのを許してはならない。積極性と超越的現実、革新と充実の精神を養う化学的・反化学的回路を養うこと。この充足感は個人的なものであり、移し替えることはできない。快楽を求めて熱狂的な競争を繰り広げ、思考とその伝達の磁気の波に心を引き込むようなものだ。思考の伝達は現実的で磁氣的であり、誰も否定できない回路を発達させ、抑圧された感覚と快楽という時間を越えた空気の中に広がっていく。私たちは皆、最初は外部エネルギーを遮断する存在だが、それが私たちの生きる意志を強めるのだ。

これらの衝動は私たちの理性に影響を及ぼし、時には思考に葛藤を生むが、電撃的な幸福をもたらすこともあり、ポータル興奮とともに私たちを外部の現実へと導いてくれる。

ブルーライト

激しい感情に由来する青い光は、橋や階段を渡り、養った感情のパワーを浸透させ、スピリチュアルな可能性を発展させる。

超高感度のビームを持つ青い光は、雄弁な友情の透明な美しさを受け入れ、より強烈で深遠なものを切望する。それは私たちの中に星座を作り、深い感覚の波紋を広げ、ヘルツ波で私たちを包み込む。

このパワーは、ターコイズの色合いで活気のない心に影響を与え、深く永続的な友情に影響を与える。狂気と快楽の魔法のビームを携え、稀有なトーンブルーの美の愛好家たちへ。フィラメントのたそがれの強さの中で、それは居心地の良い保護的なエネルギーを発達させ、伝え、悪と快楽を苦悩と沈黙と混ぜ合わせる。それは抽象的な思考に迷い込ませる幻想ではなく、現実と想像の快楽を強める強い青い光である。この光に包まれる者は、常に影響を受け、本質的で永続的な友情に限界はない。

青い光は恋に落ち、明らかに理由もなく感情を養い、快楽と欲望の喜びをもたらす。この快楽は圧倒的で、包み込むようなものであり、時間の経過とともに消滅するが、未来の現在では消滅しないエネルギーの蓄積から展開される青い光による興奮の狂乱である。この保護光は常に存在し、私たちが制御不能な光り輝く快楽へと進化するのを防いでいる。

電気ケーブル

不安の活気ある電流が電線を伝って私たちの体を駆け巡り、何か新しい驚きへの希望を煽る。

身動きがとれなくなり、私たちは現実とつながる緊張感を感じ、コントロールされた計算された動きで思考の階段を下り、私たちを互いに結びつける。

こうした思考の梯子の上で、私たちは行動、顔、動きを分類し、人生の浮き沈みに自分を合わせる。光は、止まることなく私たちを21世紀の現実の狂気へと誘うエスカレーターへと送り込む、

エネルギー、魔法、ファンタジー、すべてが見かけ上調和している。しかし、階段に気をつけよう。誰もが人生のエスカレーターに従うわけではない。誰かに支えられながら、上昇する階段を登る人もいる。それでいいのか、それともバランスの問題なのか。

力のバランスは、各個人の上昇と下降の動きに不可欠である。誰もが助けられたり、支えられたりする資格があるわけではない。努力と忍耐が不可欠である。怪我や中断をすることなく、犠牲の精神に立ち上がれば、思考の光へと導かれる。

外的な力のバランスに左右されることなく、希望に満ちた確かな一歩を踏み出す。あなたは最も重要な電線に到達する。それは生命のサイクルであり、地球を養うエネルギーである。

エフェルヴェッセント・ライト

というのも、それは、後に外的現実直面したときに崩壊する、すべての光の発泡のような幻影だからだ。

悪戯と狂気の散発的なエピソードに恵まれた、発泡性の欲望は、膨張し感染する愛のように、あらゆる思考を満たし、自らを支配し支配されることを許す。これは活性化するエネルギーの交換であり、決して消えることのない発泡性である。

イルミネーション・スカイ

星々が生命を与え、思考やアイデアを刺激し、願望を現実に変える、照らされた空の完璧なバランスを達成したいという願望ほど強力なものはない。

星座のエネルギーに照らされた空の美しさは、星々の絶え間ない相互作用を促し、その力は唯一無二である。変化への意志と願望、思考を魅了する星々の相互作用と触れ合いによって照らされた空を持つ魂ほど刺激的なものはない。

エネルギー漏れ

宇宙の現実を理解することを拒むかのように、エネルギーが跡形もなく散っていくのを心配している。重要なエネルギーが、政治的正しさの仮面のように、惰性と感情の結晶化によって窒息してしまうことに失望を感じる。純粋なエネルギーの魂よ、自らを魔法に変え、事実の真実と物事の絶え間ない変化の衝動を欠いた心を飛び越えろ。変化は、私たちすべてが経験し、発展していくサイクルの不可欠な部分であるが、決して恐れや感情の苦悩に導かれてはならない。自分自身を解放し、拡大し、そして何よりも、人生の変容、私たちを駆り立てるその変化を受け入れるのだ。

生命の光

激しい情熱は狂気へと突入する。

なぜなら、私たちは本能的に愛し、愛されたいと願っているからだ。

情熱と失望がさまざまな幻想を生む。

惑わされ、愛に溺れながら、私は偽りを超越した真の愛の本質に集中する。

愛される者の行動の場で裸になり、私たちはその存在の真の姿に直面する。したがって、愛されるには、なぜ自分が愛されているのかを深く認識する必要がある。愛を与えることと受けることの間には必要な二項対立があり、この弁証法は $1+1=1$ を前提とするが、実際には誰も何も享受することはできない。

つまり、論理的には $1+1=2$ 、正しい。しかし、その結果、態度、価値観、行動全般が技術的に対等でなければ、行為は生産的ではない。したがって、恋愛関係の真ん中には一致した立場がなければならない。

理解されれば、この唯一の真実が喜びの源となり、あるいは個人主義的な個人が真の自由として理解される別の行動を求めるようになる。

論理的か非論理的か、それは人それぞれだ。私は絶対的な確信を求めない。時々、自分を愚か者だと思ふことがある。しかし、今では本物の愚か者を見つけるのは難しい。本当にその役割に自分を置く人は、自分で結論を出すべきだ。

私はそのためにここにいるのではなく、狂気を警戒し、ある種の態度を避けている。狂気とは、特定の状況や他人の判断によって決まるものであり、多くの場合、置かれた環境によって左右されるものだからだ。

この推論から少し逸脱して、私は何人かの人を好きになることに狂気を感じ、私たちは決して完全に満足することはなく、もっと愛が欲しい、もっと愛が欲しい...と思う。

なぜそんなに野心的なのか？私はその質問を撤回する。私たちは皆、愛の中で過ちを犯す自由がある。

私たちは、愛されているから愛するのだと信じたい。この感情が、愛情や生きる知恵を呼び覚ますのだ。愛するという行為、そしてその愛をはっきりと自発的に表現すること、「私は愛される権利があるから欲しい」と言うこと。だから互いに愛し合い、涙も痛みもない道を、一体となった意義深い努力によって人生に光をもたらすのだ。

原初のエネルギーを最大限に提供してくれるこの素晴らしい存在を楽しもう。

その光は、太陽系全体を照らすビームとして再生するんだ。

愛の光は決して遠くの地平線に留まることはない。

方程式を大きくして、 $1+1+1+1+...$ とする。＝無限大。

愛の分野には磁力があり、欲望を知り成就させたいという願望、あるいは単に楽しみたいという願望を引き寄せる魅惑的な力がある。

エネルギー協会

光 - 熱 - 太陽 - 力 - 隔離 - 唾液 - キス - 分かち合い - 感動 - 喜び - パーティー - 誕生日 - 年 - 年齢 - 老い - 忍耐 - 忍耐強さ - 達成 - 犠牲 - 痛み - 癒し - 医者 - 健康 - 活力 - エネルギー - 力 - インポテンツ - 欲求不満 - 苦しみ - 倒れる - めまい - めまい - 狂気 - 狂気 - 病院 - 入院 - 剥奪 - 欲望 - 意志 - 欲しさ - 勝利 - 征服 - 戦闘 - 戦争 - 死 - 損失 - 消失 - 不在 - 孤独 - 思想 - 創造 - 発明 - 嘘 - 残酷 - 不道德 - 罰 - 懲戒 - 叱責 - 罰金 - 警察 - 保護 - 警備 - 安定 - バランス - 不均衡 - 異常 - 病気 - 精神医学 - 精神医学臨床 治療 ヘルプ 注射 看護師 モルヒネ 薬物 幻覚 幻覚 不安 緊張 戦い レスラー 勝者 レース 競争 アドレナリン 恐怖 疑い 尋問 質問 答え 質問 好奇心 興味 満足 快感 オーガズム 感覚 意識的 責任 罪の意識 無垢 自由 正義 正直 真実 誠実 透明 不可視 非現実 存在しない 想像力 創造力 夢 眠り 休息 静謐 STOP サイン シンボル 凶面 鉛筆 消しゴム タイヤ 道路 旅 運送 電車 線路 針 ピン 縫製 操作 介入 変更 移行 ステップ 分類 索引 用語 単語 フレーズ 対話 コミュニケーション 表現 デモンストレーション プレゼンテーション 導入 前文 導入書 葉木 自然 風 空気 海 火 地球 太陽系 エネルギー 光 パワー 青色光線.

エネルギーの活性化

不満は満足で経験する。

繁栄の輝き。

私はあなたの宇宙を彩るすべての色。麻痺す

る光

行動中であっても、感情、感覚、刺激を生み出しながら、私たちを立ち止まらせる何かがある。誰かが反応し、反応しているのに、なぜ立ち止まるのか？ 行動には忍耐と知性が必要なのだ。

直面する他者を理解する。まるで答えのない子供のように、私たちを麻痺させるエネルギーをなぜ解放するのか？

勇気よ、親愛なる友よ、この言葉は裁かれるための命令だ。誰が正常で誰が異常なのか...誰もわからない！

私たちは皆、信仰を持っている。そして、幻覚のような響きで魅惑的な音を暗示するハーブのように、意志への疑念と遍在する欲望がやってくる。

時にはリラックスして耳を傾けることも必要だ。私たちには2つの耳と1つの口があり、話すことの2倍聞くことができる。沈黙は甘えでもコントロールの欠如でもなく、行動なのだ。沈黙に耐えられる人は少ないが、沈黙を経験することで、多くの主観的な疑問に答えることができる。沈黙は無言だが、衝動的な欲望に対する完璧な武器になる。だから落ち着いて、耳を傾け、自分の中に宿る静寂に耳を傾けよう！

ある日、私が稲妻になったとしたら、破壊的で、恐ろしく、騒々しく、容赦がないだろうか？

人間と同じように、それぞれの光線には独自の特徴があり、明確な行動様式と独自の光がある。だから、いつか私が光線になったとしたら、少なくとも私はオリジナルな存在になるだろう。

それぞれの光線にはそれぞれの行動様式があり、人と同じように、行動はいつでも一瞬のうちに起こる。

私たちは光線や存在をコントロールできるのか？その方向性や運命を変えることは可能なのでしょうか？運命に関して、私は初めて神の名前を口にしようと思う。あるとき、コーランの信奉者と信念や信仰について話しているときに、次のような話を聞いたことがある。サイコロを渡されて、神に最高点を熱烈に求めたが、結局は最低点を出したとする。つまり、サイコロを投げたのは誰なのか？

この話を超えて私が言いたいのは、私たちも光線／ビーイングも、私たちがいる環境の中で行動し、それぞれが独自のエネルギー、形態、行動でサイコロを振っているということだ。

人生の光で卒業した父の教え

私の人生に父の教えを与えてくれたことに感謝したい。結局のところ、こうして私たちは形成されるのだ。人生に気を配り、身の回りのものすべてに敏感であることによって。

ラディアント・モーニング

カナリアの歌、魚の優雅な泳ぎ、木の酸素供給で目覚める私の世界は、素晴らしい体験だ。

仲間を紹介しよう：

メロディアスな歌声で魅了するピントス・カナリア。

スマーティー・フィッシュ、水中を静かに滑る。

そしてアマゾナス盆栽は、生命を吹き込み、鼓舞する。

私の世界には、この3人の素晴らしいインスピレーションを与えてくれる存在に加えて、20年前の世界を象徴する地球儀が窓辺に飾ってある。また、2本の砂漠のバラがあり、1本は忍耐を象徴する元の色で、もう1本は希望を表す深い緑の色合いで描かれている。私は、この完璧な私の世界で、輝く朝の下で、邪魔されることなく書き、想像し、感じ、友愛の結合のバラを想像したいと願う愛する魂に私の言葉を捧げる。

いつもとは違う現実を目覚めて、書く分野を探求することで自分の存在が広がっていく。

思考がどのように伝達されるかを考えてみると、私はそれを光とその力に例えている。

私たちが皆、異なる視点から物事を考えるように、時流に乗ることも大切だ。

魂には動揺する瞬間がある。

私たちが自分自身を見る目は、必ずしも単純ではない。

エネルギーは拡大する。

悪い行いをする乱れた心が蔓延している。

ユニゾンの声は一人の声より大きく聞こえる。

言葉は表現の芸術だ。

その瞬間から、インスピレーションは存在する。

心臓の鼓動には独自のリズムがあり、それが静脈を通じて広がっていく。

抑圧は静かに起こる。

すべてのものには目的がある。

悪について考えることは誰にでもある。

時には沈黙することもある。

誰にでも考えがある。

記憶は常にあるわけではない。

憎しみは有害だから避けなさい。

誰もが適切なタイミングでチャンスを得られるわけではない。

私たちが苦しむのは、それを許しているからにはかならない。

誰にでも表現の自由がある。

真実ほど正直なものはない。

私にはさまざまな表現方法がある。

元気であることはバランスを保つことだ。

バランスはルーティンのサイクルで成り立っている。

緊張することはバランスを崩すことだ。

人々は自分の意見を持ちたがる。

誰もが自分の中に純粋さを持っている。

太陽は生命エネルギーの源である。

普遍的な愛は思いやりを生み出す。

異常なのは行動がないことだ。

アイデアは多いが、信念は少ない。

取り返しのつかない状況もある。

誰もがどこかで不公平にさらされる。

愛は喜びをもたらす。

私たちはしばしば孤独を感じ、守られていると感じる。

深く考えることを避けたがる人もいる。

意識は啓蒙的なランタンのように私たちを導く。創造された想像上の困難、あるいは現実！

困難と問題：潜在意識と意識の相互作用。

意識と充実感。

無意識と投影。

存在への自己の投影。

私は存在し、ゆえに私たちは存在する。

私たちはひとつの私であり、ひとつの世界である。

世界が、私が、私たちへと変わる。

私たちはこの世界、そして彼ら、私たちに対して行動する。

私はあなたの一部となって行動する。

あなたは彼らの上に立つ。

彼らは世界であり、存在の世界なのだ。

生物でないもの、あるいは無生物であるもの。

光を生み出し、光を捕らえる。

光はエネルギーであり、エネルギーは力である。

力は欲望であり、欲望は欲望である。

望むことは現実であり、私たちは皆、本物を達成することができる。

現実とは事実であり、行動である。

行動とは世界への応答であり、行動する世界とは変容である。

変革は修正であり、変化は現実である。

変化とは永続的な欲望であり、私たちは常に欲望の軌跡を辿っている。

欲望は抑圧されるものであり、私たちが望むものすべてが世の中にあるわけではない。

手に入らないもの、存在しないものに対する不満、非現実的な非存在。

非現実的で、達成不可能で、実現不可能な思考の絶望、存在しないもののために苦しむ絶望。

存在しないものは欲望を引き寄せる。存在しないものを望めば、幸福は得られない。

幸福とは欲望を満たすことであり、不幸とは実現不可能な欲望が実現しないことである。

うつ病 満たされていない、実現していない、非現実的であるという心理状態。

この世界には非現実的な事実が存在し、力、そして事実は、手の届かない、到達できない、スピリチュアルな世界だと推測されている。

スピリチュアルとは自己の感じ方であり、私たちは皆、スピリット、スピリットの素質を持って生きている。

モチベーションとは私たちを駆り立てるものであり、行動への衝動であり、行動とは行為である。

他者への行動、他者、彼ら、彼ら、私。

私対彼ら（世界）、社会的世界。

学習 行動の 行動の学習 学習 知識の 知識
の学習、現実の事実の知識、知識の武器。

私と彼らの間の知識の伝達。

私たちは知識の世界であり、誰もが何らかの知識を持っている。

知識を共有することは学ぶことであり、学ぶことは共に生きることであり、共に生きることはコミュニケーションすることであり、コミュニケーションすることは関係することであり、関係することは交流することである。

交流することは世界に働きかけることであり、世界に働きかけることは世界を変えることである。

知識によって世界を変えることは進化であり、進化することは知識を得ることである。

知るということは、知識を無限の知恵に満ちた多文化世界へと変容させる方法を知ることである。

賢明であることはユートピア的であり、ユートピア的とは達成したいという願望であり、意志である！

意志とは内なる強さであり、内なる強さとは自己である。真理はひとつ！

宇野は私だ！

我々是一个の世界だ！

私たちは彼らであり、私たちであり、あなたであり、存在なのだ。

成長することは存在することだ。

存在することは存在することだ。

現実に存在する。

私たちが存在し、私たちが世界であることは事実だ！

生物と無生物の世界。

世界は私によって、あなたによって、そして彼らによって変えられる。

世界は進化している！

進化するとは、より知識を深めることだ。

知識があるということは、知識を持つということだ。

知ることは知ることだ。

知ることは経験することだ。

経験することは感じることだ。

感じることは知ることだ。

私たちがそれを感じるのは、それを経験したときだけだ。

やりたいと思ったときだけやってみる。

望むことを経験する自由という選択肢。

その通り、尊重されるべき義務だ。

そうしたくないし、わからない。

私たちは知らないし、変身もしない。

世界のさまざまな自分が獲得した知識。

わからない、やってみたい、誰かに聞いてみたい！

人間関係は、私と彼らの経験から引き出される。

他の人がすでに経験した間違っただけがあり、それが良くないというのは常識だ。常識、人生の知恵。

経験を共有し、知識を得る。

交流を通じて、交流することは変容することだ。

世界は相互作用であり、世界は私たちである。

世界は私であり、あなたであり、私たちであり、あなたであり、彼らである。

分かち合い、友情、共犯。

価値観を共有し、いくつもの結び目を持つ同じ私。

私たちは社会だ。

私たちには友人がいる。

自分たちの間で行動することで、彼に影響を与えているのだ。

それは、世界、世界の影響、変容。

変容：新しい私、私たち、彼ら、あなた、新しい世界、新しい現実。欲望

キスをちょうだい...あなたが知っているようなキスを...！

欲望が高まったときに交わしたような、隠れたキスを.....。

キスして...ソフトな...優しい...知ってるでしょ

思いやり...甘い...あなたを知っている

キスをしよう...

不眠症

私は眠らない。眠りたくないから、生きたいから。

この障害が私を眠らせてくれない。

不眠症と向き合う。漫画 狼の

影

シャドウ・ウルフは行方不明だったが、今は見つかっている。

保護されているが、それは選択によるものだ。

彼はその器用さを化学物質と必要不可欠な水で養っている。

自分の影の純粹さの中で、彼は冒険に飛び込み、カリクアオに避難所を見つける。

ウルフが守られたように、しかし孤独な選択によって、明らかな孤独に浸っていた。

今日、私はロボ・カリクアオとともに、彼の世界と向き合い、それを解釈しながら書いている。

自立した友人であり、野性的な性格なしでは生きていけないが、人生の真の新参者のように慈愛に満ちている。私が卒業したカリクアオで生まれた彼は、忠実で誠実な若者の血を受け継ぎ、何よりも恐れを知らない性格で、本質的には獰猛だが、忠実で友好的で仲間を尊重する。

従って、忠実な旅の伴侶であり、共犯者であることは、常に愛情と沈黙をもって解釈される。

私はカリクアオとその周辺の通りの影を知るほど長くそこに住んでいた。

私はオオカミの中に勇気を見たし、彼は信頼し、無言で、自由を法定する友情の絆を築いた。

オオカミが持っているものといえば、それは自由である！

シャドウ・ウルフ、その存在形態は人外の光り輝くエネルギー。

吠えることで、遺伝的な性質からくる野生の独立心を押し付けているのだ。

私は、オオカミ、いやソンプラ・ロボ・カリクアオとそれぞれの夕食を精神的に分ち合うことにした。彼らはひとつの料理とそれぞれの飲み物によって自由で友愛の絆で結ばれていた。

私たちは孤独なのか？

もちろん、自然が私たちをどのように形成するかについて考えるのは自由だ。

今年のクリスマス、ウルフ・カリクアオは私へのプレゼントであったが、彼は生来の遺伝的環境による野生児であり、染色体に引っ張られ、その本質にある自由で純粋な感覚に向かっている。

彼の生き方は謎めいているが、生きることへの渴望に燃えており、いかなる制約や押しつけからも解放された孤独な一面を楽しんでいる。

私とソンプラウルフは友人だが、他人のプレッシャーに対して型破りな方法で行動するという点で変わっている。私たちは母なる自然によって自由であり、そのため私たちは成長し、私たちに影響を与えるものを誘発する。

ハバナ・クラブは、革命を渴望し、自らの存在を支配しようとする狂気のエッセンスである。これは、犬の本能の協力による、自由だが孤独な協定である。

恍惚としたコミュニケーションについての考察、私たちを隔てる沈黙のわずかでシンプルな反響で理解できる。

行為とは、拒絶という単純な刺し傷でさえも、痛みを表現するものだ。

物理的には乗り越えられない障害だが、光り輝く存在のホルモンや精神的な化学反応にとってはそうではない。

真の愛を開花させるために、天の身体が私たちに侵入してくる。

愛というクローバーを探し求め、多面的な存在を理解することにこそ豊かさがあるのだから。

またひとつ、思いやりと優しさへの欲求が高まり、社交界における代表

的な自尊心へと昇華する。

唯一無二の自己の観点からすれば、輪の中にどれだけ多くの欲望が生じようとも、いかなる意志も疎外されることはない。

誠意、忠実さ、尊敬、そして何よりも義務という黄金の輪は存在しない。

私たちは純粋で野性的であり、自己の視点が常に他者を侵している。

単純な考えの対立に影響されやすい興奮した心では、常識に訴えることが急務である。

私たちが屈服しなければならないとき、あるいは自己と他者の間に割り込まなければならないとき。

望まないものを拒絶することほど一般的なことはない。

愛すること、LOVEとは、自己ではなく他者を感じることである。

私たち生き物をつなぐ建設的な態度は、生き物が他の生き物とともに持つ調和を必要とする。

本能的な行動に刷り込まれた私たちは、自己のことしか考えず、次に自己のことを考え、そしてまた自己のことを考える。

"I"が"I's"に変換されるから対立するのだ。"I's"がいくつあっても、私たちは相手に屈服するまで耐えなければならない。

自分自身を見限るように常に誘っているようなものだ。

仮面をかぶった自分自身と、私たちが持っている利己主義のレベルに注意を払うこと。

私」の鎧は、「私」プラス他の「私」である存在する「私」によって、いつか破られる。

ああ、もしあなただけが知っていて、それを望んでいたなら.....。

なぜこのような無駄な不安を抱くのか？

君はあそこからこ

こまで来たんだ。

それがどれほど完

璧なことなのか、

僕にはわからない

し、気づかない。

目覚め、目覚め、

暗闇から抜け出し

、懐かしさを感じ

ることなく、情熱

に、欲望に、目に

映るものすべてに

のめり込んだ。

そして思い出した。

強烈なキス、強いハグ 与えた

もの、受けたものすべて

何も聞かずに

痛みなく、愛とと

もにあることを求

めずに、存在の再

生から生まれる。

見た、願った、生きた

そして、彼らが私に与えてくれたも

のすべてを思い出した。

彼はもう主張しなくなった。
愛、愛情、思いやり、すべ
ては情熱のために
決してノーと言わないその
言葉

フリーで待機
求めてもいないものを与
える。
それは真実であり、求め
ることなく、要求するこ
となく与えることだ
ノーと言われたいな
ら、聞かずに与えよ
う

平和を求める
万能薬を見つけよう
比類なき宝物 ただの宝物
金ではないもの
それは永遠の愛
あなたは私が何を望んでいる
か知っていた。
あなたは気づいた。
深い何か、感じていたけれど
表現できなかつた何か。
それは憑依することのな
い力であり、見ることな
く浮かび上がるものだっ
た。

それは愛であり、私が切望して
いたものだった。

しかし、私はそれを所有してい
なかった。

夕暮れ時に咲き誇る姿を見た
いものだ

すべてが起きている
恐れることなく、ため
らうことなく 眠ること
を恐れることなく 温か
な孤独感

心臓に手をあてるように。

私はあなたを見なかった、でも私はあなたを知っていた、あなたを感じてい
た

香水は彼女のものだった

サンダルウッドとジャスミンの香り

私は耳を傾けたが、聞こえなかった

しかし、私は気づいた。

私はその場にいなかったが、私は知っていた。

昨日は同じだったが、今日は違った

見た、嗅いだ、聞いた

面と向かって

それは特別なものだった

痛かったし、僕にとって不可欠だった

呼吸をしていた。

私はあなたのために息をした、私はあなたを見なかった、私はあなたを感じなかった

そして、それは終わりではなかった

あなたが遠くにいてくれたから

遠いが存在する

私は僧侶に尋ねた。

進むべき道、未来を示すために

そして、私はあなたがそこにいたことを推測した

背景は窓の外

会わずに、与えずに

私は空気であなただを包んだ

私はあなたを海に連れて行った

海の匂いを教えてあげる

湿度と喜びを呼吸する

それが私の見たものだ

海、砂、湿気、空気

そして、そう、あなたの

息 私は思慮深くタバコに

火をつける

そして、存在と思考対象との

調和を高く評価する。

私は行間をさまよい、頭の中をアイ

デアが流れるのを待つ。

作家と読者の間の目的と相互

作用

私は自分の書いたものを最後まで読

んだことがない。

私が伝えようとしていることを理

解してくれているのか。

漠然としたもの

タバコの火が消えてしまった。

よくわからないが、私は精神的・知的解放の一
形態として書いている。

それは私にとって良いことだ

私を読んでくださる方々には、ハッ
ピーで元気でいてほしい。

最近、私はより直接的な書き方を選んでいる。

光とエネルギーのためでは
なく、愛と理解のために。

慈愛に満ちた言葉が響く

続きを読む

愛情深く、分別があり、私の両腕は愛と
信頼に開かれている。

葛藤することなく、自分の言葉にアンビ
バレントであることを望まずに。

私はより直接的で客観的だ。

読み手と書き手を結びつけるこの感情。

自然体でありながら、親しみやすい言葉
を使う。

文章を形成するために組み合

わされる文字間の一致につい

て

常につながりがあり、非常に現実的であることを願っている。思慮深い言葉、瞑想的なフレーズ。

考えさせたら申し訳ない

。

たとえ不条理なことであっても、それは存在するものだからだ。

ただ、自分も存在していることを伝えるために。

平凡なフィリペ・モウラ
のスタイル

私の記事を読んでく
れているすべての変
わった人たちへ

私は自分の書いたものを読む忍耐力がないことが多いからだ。

正直に言うと、私はほとんど本を読まない。でも、そうすることで、また考えさせられるんだ。

これが私の挑戦だ
読み、読み続け、そして内省

する。

感謝し、幸せに思う
他の人もそうだと思うから

思い！たぶん、
あなたはそれを
感じていない

石に降る雨のように感じる

舗装の穴を貫通する

砂と土の下の連合体

厳格で厳しい接続

部屋もスペースもない

他の石ではない

効果的な比率は以下の通りだ。

石、土、砂

その上を歩く

人間関係も同じ

コールド・ストーンの相互作用

砂や土の有無にかかわらず

しかし、石工の手によって結ばれた

誰が彼らを統合し、完成させたのか

愛は全地球上にあるべきだ

石畳のように団結しよう

レンガ職人は男だ

複数の石をつなぐ

石の心を縛ることはない

しかし、柔軟な感情

他の作品へ

我々はアンサンブルであるべきだ

組み合わせられた部品の

あらゆる重量に対応可能

時間の消耗もない

歩いている舗道を壊す勇氣

そうやって人々は

余分な負荷に耐える

しかし、もし彼らが団結すれば

影響は少ない

愛で別の作品に参加する

愛は私たちを結びつける砂となり、大地となる

弱点はない。

すべての部品が揃っていれば最小

そして、よくフィットしている

人間は自分自身を完成させる

ストーンと合流

ともに強く、道を形成する

世界中で長く堅実

それはレゴのように私たちを結びつけるものだ

不滅の要塞がここにある

すべてが一体となり、完璧

すべての石が磨り減ったら

砂を敷くだけ

石にも寿命がある。

石のように、人は入れ替わる

消耗と寿命のため

小さい石、大きい石、中間の石がある

自然にフィットするものもあれば、磨く必要のあるものもある。

正しい位置に収まるまで成型される

すべてのピースが組み合わされるジグソーパズルのように視覚化する。

誰にでも居場所がある

ジグソーパズルのピースがなければ、何ができるだろう？

私たちは皆、世界で必要とされている

地球はすべての男女を必要としている 誰も消耗品ではない。

存在、在り方、そして他者とのつながり方

ここに巨大なパズルがある：地球

私たちは知らず知らずのうちに互いにつながり合っている。

まっすぐな人もいれば、曲がっている人もいる、

しかし、すべてがうまくいくのは当

然のことだ。

この舗道は、存在同士の調和である

全員が同じ目的のために協力する場所 仲間

同士の愛とつながり

個人

68

買収された

あなたはお金を持っていて幸せだ

見たことがない

表情がすべてを表す

勇気がいる

ありのままの自分を受け入れる

私たちは完璧ではないから

完璧な人間などいない

なぜなら、いつか富が

エッセンスを入れ替える

そして、真正性なくして富はありえな

い。同じ痛み

同じ熱意が愛

だった

情熱

それは私たちの想像

力だった。

想像から現実へ、私は

忠実である

情熱に、愛に、熱情に、

そして痛みにも。

あなたの素晴らしさ

によって、私は存在

し、俳優なのです。

私たちの世界では

あなたは無声映画女優、でも私

たちの旅は

これは映画だ

私たちの熱情を見よ

」と歌うロマンチッ

クな映画から

痛みのない愛"

あなたはそう

かもしれない

私は

それなら、私たちは

私たちは一緒にいる

私たちは観察し、見る

同じビジョン

同じ運命

同じ地平線

私たちの歌

同スペース

すべてがフィットする

すべてを持っていく

私は次のことを計画している。

理想化

懸命に働く

同じルートで

同じ道で

呼吸とため息

あなたはいつもため息をつく

あなたは未来を恐れていた

難しかった

苦しむあなたを見て

痛みを感じることなく。

傷

それが人生だ

った。

分からない

なぜなら、私はこう想像しているからだ。

想像力は常に信頼できるものではない

しかし、私はそう思う。

遠く離れていても、私たちはつながっている

私たちはただそこにいなければならない

我話せば君答える

どこにいるかは知っている

わからないものだ

もし私がそこにいるなら

しかし、私はあちこちで自分自身を見つける

そして、私はいつもあなたとともにいる

まだ分からない

私には想像することしかできない

しかし、私は良いことを想像している。

制限なし

障害なし

それは君と僕だ

私たちはいつもここにいる

一緒にいても、離れていても、私たちはつながっている

相互接続、あなたが必要

私のあなたも

あなたは行動し、私は反応する

あなたは笑い、私は微笑む

あなたが言うなら、私もそう思う

あなたが見て、私が見る

そうだね。

私たちは常に同じページにいる

あなたを待ち望んでいます

あなたが欲しい

キスのために

旅行中

走る

フライト

私はいつもつまづく

しかし、私は倒れない

怪我もしない

あなたは治療薬

私の願いのために

約束する

あなたに会うために

そして、私はすべてを見つける

何も知らなくても

なぜなら、私はすでにそれを想像していたからだ

未来の姿

私はあなたを見て、あなたを感じた

そして、あなたも同じように感じた

あなたは私が書いたものを読んだ

そして感じたのは

私の近くにいてほしい

いつも私のそばに

動揺に打ち勝つ

しかし、戦いはない

申し訳ありません

誰も悪くない

あなたが見たいのは

見なくても

知っている

どうだろう

それが現実だ

征服は現実だ

それは単なる想像の産物ではなく、洞察力の賜物だった。

ミスなしヌルま
たはゼロ

誰も試合から離れるな

ある人が次のように言った。

お望みのもの

充実感

一時の幸せ

野心は征服し、征服し続けることだからだ。

というわけで、このような機会に恵まれたことをうれしく思う。

挫折を味わった。

常に多くを望む

何でも結構です。

そして今、私は幸せだ

でも、もうひとつの願いがある。

だから、天才さん、私を認めてください

つの願いではない

だが	はい	a	あり	の	願い
E	すでに	今		ミ ス タ ー	ジーニアス
いいえ					消える
そんな気がする			もっと見る		いずれも
する					
物					

図

...記憶し、感じるに越したことはない

憧れ

何かを作りたい気分だが、漠然としすぎている。想像すること、創造すること、変容すること。誰かに読んでもらうために書くこと。何が、なぜなのかはわからない。インスピレーションが欠けているのだ。書くことと読むものがあるというこの状況に立ち向かうために、私は立ち向かわなければならない。私は考え始め、手放そうとする。簡単なことではないので、あきらめようと思う。

冒険や不運を語る日があるとすれば、たった1日だけだ。1年もない。年経った今日、私は50日を見ることが出来る。年365日、週7日、1日24時間だ。この1年365日、1週間に数日、60日、24時間のうちの数分間の50日間の瞬間の断片がここにある。とにかく、今を生きよう！

理解することで、何が起こったのかを論証し、明確にすることができる。私は何が起こったかを超えていた。私はただ、それがどこで始まり、どこで終わったのかを知りたかっただけなのだ。

どんなことが起こっても、その結果が予測できなくても、私はあなたのことを忘れないし、どんな状況でも私たちの愛に頼ってほしい。

私は暗闇を覗き込み、夜の深さを見た。リラックスしてラジオの音楽をかけ、自分を解放する時だった。夜は仲間であり、私たちは最

も繊細な感覚を共有することができる。私はこの夜のことを「沈黙の夜」と呼びたい。なぜなら、夜はいつも耳を澄ましているが、ほとんど何も話さないからだ。

全世界に囚われた生き方とは？不安を和らげる自由の息吹。この閉塞感
は緊張を高め、神経は人知れず震える。そして束縛が緩み、結び目がほ
どける。もっと平凡な、あるいは官能的なものの中で、自由に自然であ
ることがどんなものか。

それがどのように機能するのか想像すらできなかった。それは、私が想
像し、表現したものを書くこと、持つことだった。その姿、私の存在、
ただ存在すること、感じること、見ること。私は心に浮かんだことをす
べて書き留めていた。私はそれを楽しんだ。

この孤独で、個人的で、無目的な立場。忘却の彼方へと突き進むこの方
向感覚の喪失、感情や呼吸、そして信じたいという欲求の完全な喪失。
これは、生きていれば誰もが直面することだ。

視線ひとつ、ため息ひとつで、タバコの煙が広がる。一服、また一服。
時計を見ると、刻々と時間が過ぎていく。タバコの火は、私が常に探し
求めている何かを求めてゆっくりと燃えていく。この瞬間から、また一
服、時間が過ぎる前に一言。この中毒がなくなることを願う。

私は抽象化されていた。戻ってきて、夢中になって、少し混乱していた
。少し奇妙だったが、夢ではなかった。私は目覚めていて、サイコロ
を投げる準備ができていて、心の赴くままに前進していた。それはうま
くいったし、私はその姿を想像したし、何よりも、それは私が創り出し
、それとともに生きていかなければならないものだった。私の存在、そ
れは生きていることであり、存在していることなのだ。

知ってるかい？物事を変えるものがあるんだ。それはすでに何かであ
り、何かであったものが何かを引き起こす。でもいつ？それが変容
して、本当にそのものになったとき、それはすでに何かであった。
とにかく、人生というものは！

それは飛ぶ者の下にある霧であり、ただ呼吸するための空気だった。恐
れることなく勝ちたいと願うこと。海辺の月明かり。私は船長であり、
航海のすべてを手にしていった。勝利のイメージが浮かび、それは達成感
だった。

そこに6タール...

あなたが求めないとき、求める必要がないとき、求めたいときにそこにいること。私がないときでも、あなたが私を感じないときでも、あなたが私を呼ぶときでも、あなたが私を思うときでも、そこにいること。あなたが想像するとき、たとえあなたが望んでもいないときでも。あなたが私を愛するとき、あなたが存在するとき、あなたが私を夢見るとき、私はただそこにいる。私がここにいるとき、いつもそこにいること。それが私の考えだ。

ある日、もし私があなただけを見かけたら、あなたは興味深い女性で、目に何か輝きがあり、明るくきらきらした笑顔の持ち主だと言うだろう。あなたは、美しく官能的で、私を誘惑し、その感じ方だけで欲しくなるような、彼女を求める人のための女性だった。魔法は好きだった？それは私の日常だった。

ある日、これから起こることをすべて想像したんだけど、後で書こうと思っても何を言えばいいのかわからない。何が起こるかわからないという夢は、本当に怖かった。私は決して見ることでできないものを描写しようとし、存在し、誰かが苦しんだ沈黙の世界への旅をここで終わらせようとした。他の人が勇気がなくてやらないことを、ただやりたくてやる人はいないと思う。彼らは行動しないが、見て見ぬふりをするのができない誰かの幸福を無視する方法を知っている。

タバコを止めて考える！

私はタバコのスイッチを切り、残された渴望を治す挑戦が始まる。祓い清め、創造するために書く。分経過し、書くことと自分以外の何かを持つことの真実が始まる。できないような気もするが、同時に最も真実である征服のための戦士のような気もする。タバコの火を消してから16分が経過し、再点火への欲求が高まる。

起こっていることを感じれば、すべてが過ぎ去る。私は考えているから、あなたは待つしかない。弱さから勝利への衝動まで、すべては夕暮れのようにやってくる。私は常に欲望と接触している。過ぎ去った1時間の後の30分を思い、自分を見て、時間を超えたい自分を感じる。私は秒単位、分単位で、まるでロケットが前進するのを祝うように旅をしている。

これまでの歩みを思うと、頭がくらくらする。火のついたタバコがあるので、一步後退。35分後、私が取り消したい行為がここにある。何も考えず、機械的、手続き的にやったことだ。この状況を消し

去る過程で、私はこの行為にアクセスした。私は今、創造の自発性に戻っている。行動とつながりを持った言葉、文章。

ラジオで計画が失敗するかもしれないと聞き、そのことを考え、方向性を感じる。また45分、またタバコを吸う！すべてが、ほとんどすべてが、私に考えさせ、私はそれに直面しなければならない。1時間で、30年分の20年分の結果を出す。人生の66%は、33%が与えてくれる100%のことを考えて生きている。

複雑な説明だった。もし本当にそうしたいなら、私は戦い、その方法を研究しなければならない。それは簡単なことではない、私はもう "一本" もタバコを吸うことはないだろう。時が来て、私は何の計画もない道をたどる。もちろん、その状況について吸うつもりだ。私の性質は純粹さを含まなければならなかった。2時間3分が過ぎ、私はタバコを吸い、そして考えた。

何かが生まれる。私はまず微笑み、何かが起こると思った。一番簡単なのは諦めることだった。私は強くなり、「勝った」と言うことしか考えなくなった。不自然な何かが異常だった。どう反省すればいいのか。一番いいのは寝たふりをすることだ。衝動が来ても逃げない。光はなくてもエネルギーは尽きない。決して影を落とさない雷の力を感じる。私は変わる。今度こそ、すべてを変えることをためらわない。私は行く。静かで平凡なタバコ、ためらいと苛立ちのようなもの。

いつかカモメがやってきたら、君を連れ戻すようお願いしよう。いらぬものを手に入れ、何も望まず、結局すべてを失った。あなたがいなかったら、私はどうなっていたらろう？この情熱に包まれた描写は、私には計り知れない愛があり、いつもそうだった。私は走ったが、彼は私をつかんで引き離し、私を連れて行った。あの忌まわしき姿は、目に見えず、雨の中で私があなたに言いたいことを絵葉書に書いていた。私は太陽の絵とその光線を描き、あなたは私のエネルギーであり、あなたのために私の太陽はいつも輝いている、たとえ雪が降る日でも、と伝えるだろう。それは、いつも風が吹いているという思いだった。

考え、反省し、行動するかしないか。表現するのではなく、感じるのだ。感じること、表現しないことがどれほど難しいことか。ただ存在しているだけで十分なこともあるが、反応する前に反省し、あたかも感情であるかのように処理し、ふりをする。あたかも思考をコントロールするかのように。

すぐに行動するかしないかは、賢明なことだ。だから素振りをするのは、考えた末に感じることであり、そう、私たちが感じないかもしれない反応なのだ。時には思考を封印し、ただ存在することを意味するプレゼ

ンスにとどまることで、反応しないこともできる。

障害

障害はショーそのものではない。恐れることなく乗り越え、時には痛みを感じることもあるが、大切なのは生きることであり、成長するために戦うことだ。それは時に成長し、学ぶことを意味する。生きるための闘いにおいて、私たちは常に損失や不運に反応しなければならない。障害を克服することは、自己を最大化することなのだ。

克服することは、征服するという究極の喜びであり、自分自身を凌駕し、価値を得るという正当な価値を自分自身に与えることである。生きることの本質は、敗北から学び、最後に勝利することにある。

海上の旋風

水は海へ、砂は海へ。一滴一滴、一粒一粒、地面を転がる風。私は片手で海の雫を、もう一方の手で海の風景の砂をつかむ。それは私の手の中に没入する広さだ。手を放し、自分を解放すると、すべてを手の中に収めた感覚が広がる。

しかし、私たちはすべてを持っているわけでも、すべてを達成できるわけでもない。胸に抱いたもの、手にしたものがすべり落ちてしまうこともある。すべてのものには感情があり、それが渦となって現れる。しかし、伝播する。彼は超自然的な経験の未知のヴルトである。その人物はささやいた：「顔のない男を恐れているのか！」「はい」私は少し恐る恐る答えた。「恐れることはない。私は光の前にのみ存在するのだから」。私はすでに光とエネルギーについて語ったが、顔も知らず、官能的に現れ、物理的に到達することなく逃げていく男については語ったことがない。その姿は、光なしでは生きられない闇の存在だ。暗闇と静寂の中に身を潜めながら、顔のない黒い帽子をかぶって光の中から姿を現す奇妙な存在、影。私は天へと昇り、あなたの視線と変成作用のある光の偏差で自分自身を拡大する。天の隣で、私は他の誰にも似ていない、スルタンのような、気落ちした雰囲気ですら笑い、暗い空の速度で反応し、透きとおった切り裂くような雨の最後の一滴まで自分を濃縮する。しかし、顔のない男にとって、水は私の体の上を流れ、私の姿のマッキントッシュは影でできているので濡れない。この想像上の人影は、闇から逃れて光を求める者を追い払うために私が作り出したものだ。私は災いの友好的な影なのだ。ヴルトの災いの全ては、それが存在しないこと、消え去った幻影であることだ。

叫び

生涯の快樂の形のように、他者を守る感覚と魂の恐ろしいハミングが、曇った魂から浮かび上がる。上昇する者は常に落ちるのではなく、挑戦のために上昇する。あなたが本当に見ているのは、絶壁からの落下ではなく、上昇なのだ。緑が横たわり、青が薄れる波の高みに、他者の原理を警告する赤が現れる。暗いもの、陰気なもの、軽薄なものは必ずしも存在せず、悲鳴のような静かな叫びの絶望を悪化させる。この言葉の中で、彼は情熱を伴う超自然的な魔法との出会いを指している。キャッチボールなしに、一文字一文字、言葉の文学的壁が築かれ、避けられない事実が浮かび上がる...その中に、文章と断ち切れない満足の涙が流れ込み、その存在は対立することなく、活性化され、南極の氷の裂け目から姿を現す。

君のことを考えたとき、僕は自分が何を失ったのか気づいた。ここにいる私、そこにいるあなた。自分が火山だったらどんなによかっただろう。

私は難しい局面を経験している。静かな忍耐に戻るつもりだ。行っ
ていよ、ドアはロックしておくから。あなたが来た理由も知っているが、あなたがどこへ行くかも知っている。奈落の底は広く、あなたと別れる思いはもっと広い。私を置いて逃げ、孤立し、爆発する。

初日から、あなたの言葉は私のフレーズだった。しかし、次にあなたが「こんにちは、私はここにいます」と言うとき、私を当てにしないでほしい。あなたの旅は必ず厳しい現実に戻るだろうが、それに侵されることを望む者にとっては調和のとれたものになるのだから。私たちは何をもち、何を求めているのか？あなたの一言、それは「さようなら」。そして、あなたは去っていった...

最後だった...憧れは終わりを告げる。涙がこぼれ、その叫びを消した。私を締め付ける縄は、私を窒息させる縄とは違う。糸でつないだ喉の結び目。それは心を絞めつけ、意識を窒息させる。それがもたらすのは、若返りの緩慢な死である。

私の外で私の中で生きる。運命を消し去り、分数を生きる。この時間を超越した感覚は、次の数瞬間に広がる。席を立たずに空を飛ぶように。決して止まることのないその瞬間は、呼吸をしているからであり、決して止まることができないからこそ、呼吸をすることができるのだ。

生きるということは、息をしたいという衝動と同じくらい強いものだ。しかし、ただ呼吸しているだけでは生きていたとは言えない。生きることをやめたとき、呼吸は止まっていない。私たちに浮かぶのは、無力なイメージだ。

限界も結果もなく、次のステージへ。私たちが動かしているのは、私たちを取り囲み、絶えず私たちの気を散らしているこの自然である。自然は人間の動きのあらゆる瞬間に、無作為かつ相対的に優れた方法ですべてのフレームを映し出すのだから。

私」の姿の周囲に生じるすべてのものは、内部を拡大する外部であるが、気晴らしの感覚だけをとらえることは、私たちが動かすより大きな存在、母なる自然である。

美德と矛盾に満ちた瞬間が侵入し、心の瞬間に同化されるなら、これらのインプットはいかなる衝動の学習とアウトプットにもかなわない。

茫漠とした遠い思いから抜け出してくれて嬉しいよ。話したいのは...君が決めるんだ。役割を逆転させることで、あなたは黙れと言う。言葉の飛行は演技だ。あなたを無視して連れ去るように。あなたは風の影の中を飛んでいる。あなたは隠れていて、現れたい時に現れるから。見えないのか？

誰かの世話をすれば、自分の単なる不幸以外の友人ができる。すべてが気化して現れる。そうやって、10まで数えて、未来の窓が開き、広がる最後の煙だけを見ようとする一瞬の眩しさと、未来のクリックがいかに大きく広大になるかを悟った。

心臓の鼓動の数よりも、君を愛している…。

私もあなたも同じ愛の空気を吸っている。

私はあなたの世界を彩るすべての色…

私のために、あなたのために、そして私を愛する人たちのために。

ある日、あなたは私の心に根を植えてくれた。今日、その木は生命への愛と呼ばれている。それは決して根こそぎにされることはない。

変圧器

現実を変える輝かしい力の
バランス。

電気パネル 制御位置

と

ユニバーサルカレントの行き先

明るい陽光が地上の
自然の深淵を照らす

。

光源

生命と光の泉の中で、雫の
ように地面に落ちる。

ワイルド・ウェスト

ひたすら異常の動きを探す

。

電気ショック 神

経が騒ぐ フラッ

シュ

心臓に電気ショックを与える。

電磁波 感想は行ったり来た

り

波のサイクルをうねりながら回る。

図

電流

この電流が私の体を駆け巡り、
波の回路へと私を連れて行く。

電気インパルス

電氣的に循環するインパル
スに揺さぶられる。

真実の光

衝動的に発見したときこそ、
真実は輝きを増す。

ブラックアウト

苦悩に満ちた声は、存在する
という光り輝く感覚によって
沈黙する。

光るキャンドル

蓄積された痛みは、溶けた

ロウによって発火する。

電動ドア

触ると優しく開くが、開く暇もなく閉じてしまう。

電動センサー

ダークエネルギーで振動する憎しみの根を断つ感電死

発光する煙に包まれ、記憶を消し去る。

電磁乱流

それらは無限の電磁気によって、騒然とした心の中で攪拌される。

電光石火の光線

エネルギーッシュな心を麻痺させる稲妻のように。

不吉なライト

それぞれの存在は、不吉な閃光を放っている。

点滅ライト

点滅する光に悩まされる
直流電流の通過。

不透明な光

不透明なライトは暗い光の中で
幻想的な存在を照らす。

電線

電線が私の体を走り、エネルギー
で振動している。

第10回 電気回路

10周目に向かって登る
そして、停電が発生する。

電氣的落下

私は恍惚とした感覚に包
まれた。

ライトカット

シャープで明るいエコー、
光を放ち、壊れた声をとらえる。

きらめく闇

歩く生き物フラッシュ

目の向きが不明瞭な

蛍光

花は咲き、雷のように四方八
方に落ちる。

「影を落とす

刺すような稲妻が眩しい

他人の感覚や視線を楽しむ。

白熱

ダイナミックで白熱した衝撃。

感電しやすい

感情の不調和を打ち付け

る閃光のように。

強く決然とした光を求めている。

黄昏の不在

明かりの中でそっと丸くなる
稲妻で私を優しく喜ばせてくれる。

回想

私は明るい日に夢中になって目覚め、闇から抜け出す準備をし、光の力でフォースを分配する。

ステラ・コミュニティ全体
にエネルギーを。

脅威の光

これらの回復期の光は、私たちに脅かし、苦しめ、危険を予感させる。

プレゼンスライト

静かな瞬間に寄り添う光は、直面することができず、密かに威圧する。

レッド・ライト

強烈な赤い光が神経を加速させる。

ショック

突発的で汚染された衝撃が、インパルスなしに心を侵す。

カンパニー・ライト

表に出ないもの、会社の光を感じないものを照らす。

サンダー

雷が鳴り響き、砕け散る音が快樂を渴望する。

強力な光

強力なライトによる非難
声によって指示される以外の人生

畜生

強力な透過光線のように、結びつけることのできない絆を断ち切る。
。

フロストライト

良心を曇らせる
濃密な光線に貫かれたとき。

強烈な光

ブラックライトの霧が強烈な光を放つ。

ルミナス・コズミック

魂の記憶喪失を癒す、深く浸透す

る宇宙のように。

光の力

光の癒しの力は、絶望の淵で理性のフィラメントを照らしてくれた。この光は私を日常生活の恍惚とした流れへと導き、暗く無目的な未来を照らした。

だから、光に癒され、光に動かされ、私は自分自身を癒し、厳しさと厳密さの熱いどん底から抜け出した。しかし、この光が私の過去を照らすかどうかはわからない。

つまり、エネルギーの両極、2つの極があるということだ。私は、暗くて呪われた側ではなく、ポジティブで癒しの側に触れた。この光は、感情の明瞭さと、即物的で衝動的な黄昏時の合理性から発せられ、意味の変遷や不透明さはなく、感情を埋め込んだり説教したりすることもない。

光は強く、強烈で、その光線で逆らう者すべてを焼き尽くす。光、感覚、感情、生きる喜びに加わり、地球上で私たちを駆り立て、束縛のないエネルギーを放つ力を存分に楽しんでください。いつか光は消え、エネルギーと衝動的な力はなくなるのだから。あなたが持っている才能を活用し、青い光線を切るようにその力を発揮させ、光のない影のように私たちを苦しめる、生きられない息苦しさや悪意に満ちた突き刺すような思考から自分を解放してください。

つまり、あなたの中には光があり、雷があり、嵐があり、エネルギーがあり、そして光がある。本来は、最も原始的な形の、澄み切った純粋な光であり、私たちを貫き、私たちに栄養を与え、時には私たちを燃やす火なのだ。それは、私たちを貫き、私たちに栄養を与え、時には私たちを燃やす炎なのだ。人生とは、このように一過性の光でできているのであり、それは私たちに、世界からやってくるぼんやりとした無力な衝撃に耐える力と活力を与えてくれる、まさに理性やエネルギーの感覚と対立するものなのだ。

自分たちの関与を非難し、言い訳を見つける。エネルギーなくして光はない。すべてのものにはエネルギーがあり、すべてのものには光があり、動きがあり、流れがある。

- それは私たちを威嚇し、奇妙な非難で私たちに突きつけるが、その非難は直接的ではなく、また別のエネルギーと衝突する勇気もないため、私たちには理解できず、むしろその光を消そうとする。しかし、それは存在し、姿を現し、視覚に浸透し、時間の沈黙を通して思考の明晰さを見せてくれる。そして、沈黙を守ることによって意見を硬化させ、他者がネガティブあるいはポジティブなエネルギーによって発信する無用な無能力を享受する。

ブルー・レイの光は威嚇するが、ブルー・レイのスピードで、そのエネルギーに運ばれたいと望む者は誰でも、そのエネルギーに迎え入れる。このエネルギーの変遷の中で、私たちが一瞬を体験することを妨げる、発散的ではなく妨害的な現実的エネルギーが立ちはだかる。雷は大きく揺れ、音波に影響を与え、超音速を生み出すが、それほど強力ではない。

光り輝く人々と真っ向から対立し、抑圧されるように、不透明な光は増え、現実を歪め、非現実に見える。しかし、架空の光も存在する。それが想像の光の力なのだ。

ブルーレイ

猛烈なブルー・レイが私の中に侵入

し、そこから湧き出るエネルギーで輝いている。

偏見と不寛容に汚染された毛穴を、このブルーレイは直撃するだろう。

人工光

すべての存在が放つ光

恥も外聞もない作為に巻き込まれ、無邪気な作為に満ちたものにならないのは難しい。

レーザー光

レーザー光は透過性があり、目に見えない。

それは洞察に満ちた光であり、観察者の手に負えない仮定と岐路の達人である。繊細で無害だが、先入観や考えを吸い込み、解毒剤で毒を中和する。

屋根裏ライト

この煙は、明確な方向性と行動を持たない心の中で引き裂かれた記憶のボロ布に覆われた心の光を横切り、思考の流れを冷却する運動作用が、ゆっくりと、まとまりのない形で起こる。

彼女はその瞬間の無為さを貫き、脳の光を熱狂させ、拡散させ、彷徨う電流刺激で興奮させる。

それは体内で強まり、催眠術のような、麻痺させるような光を放ち、まるで意味のない言葉の羅列のようだ。

これらのロフトライトは、高度なエンジニアリングを求める折衷的なルーツを持つ人々の心を魅了するだろう。

猿がいるところもあれば、屋根裏部屋だけのところもある、正面玄関を覆い隠す他の屋根裏部屋の明かり。この屋根裏部屋に、思い出や考え、要するに大義名分のない人生と一緒に入ることができたらと思う、

しかし、思い出がある。

いつまでも屋根裏を照らし続ける思い出、いつも開いているものもあれば、箆筩にしまっているものもある。

稲妻

熱を帯び、暗くなり、そして動かなくなり、沈黙する。しかし、それが鳴り響くとき、そのノイズは圧倒され、息もつけないほどである。

もっと衝撃的だ。あなたの良心を消し去る稲妻は、雄弁なうめき声を発しながら、次のような事態を引き起こす。

その行為の怠慢と、稲妻がまたこの地を襲う瞬間に、じっとしている機会を失うこと。

世界光の灰

勇敢で強力なアイロンの熱であなたに印をつけた灰には、次のような成分が含まれている。

あなたが忘れていない過去と遍在する未来からの光の灰によって、あなたの反抗心を呼び覚ます。その瞬間の衝動は中断され、ゆっくりと、涙ながらに、そして迸るように広がり、自制するように言い聞かせ、抑えきれない言葉の記憶に溺れ、光への渴望を溢れさせる光の井戸へとあなたを投げ込む。

快樂の光の中で

その光は私たちの中に入り込み、贅沢な洞察を与えてくれる、

私たちを無数の憂鬱な快樂へと導き、沈滞した快樂の化学の不安へと導くが、停滞することなく、存在、感情、感情を照らし出す他人の快樂の無邪気な顔に刻印される。

驚きと輝きに満ちた喜びを享受する感情、

過剰な快樂によって引き起こされる収縮を和らげる。過剰な快樂は、私たちが他の感覚や快樂に向かわせる。

快樂の光については、後退も揺らぎもしない中毒性を発展させ、それを糧とする、

否認の快感から乱れた髪と衝突。催眠ライト

催眠術のような光の表情の中で感じ取れる感覚は、この光への中毒的な欲求を明らかにする感情の証人であり、私たちをその存在に活力を与え、信じるように駆り立てる。

私たちは借金も債権もなく、催眠術のような快樂に溺れる超越的存在の催眠生活のように淀むことなく、それに流されていく。

これらの悪癖は、慎みと怠惰にまみれた髪と眉を貫いている。奔放で純粹な反応は、光を所有したいという純粹な欲求に立ち向かい、光に養われ、加熱中の粘土のように集まったルースストーンに導かれる。

強烈な光

この強烈な光は、運動する異質な肉体の間を分裂し、電流がなくても、簡単に照らされる2つの道の間を揺れ動く。それは自己充足的であり、私たちを養い成長させる全身的な催眠の苦しさで落胆の中に持続する。

意識的には、消灯してもなおパワーを発信するほど強烈な光だ。

サイケデリック・サンダー

サイケデリックな雷鳴が勇ましい雷鳴と絡み合い、私たちがこのサイケデリックな嵐に包まれたときに生じる異常性を持続させ、増強させる。

このシナリオでは、力もスケールもない、首尾一貫した光が放射される。それは、最も奇妙で最も深い心の片隅で反響し響き渡るブラックサンダーの異常さのための口実に過ぎないだろう。フェードし、共鳴し、秘密もなく動き、サイケデリックな光の世界を作り出し、創造する意志も単なる耽溺もなく、斜に構えた淀んだ色に染まった偏見に満ちた快樂から逃れようとする者、楽しもうとする者を苦しめる。

思考の断片の精神に浸り、目を搔いたり、ただ瞬きしたりするような刺激から遠く離れた、別の世界を想像するすべての人々。別の動きから疎外されたこの動きは、感動や興奮が何であるかという単純な事実気づかず、よそよそしくしている心に火をつけ、粉碎する。

雷はサイケデリックで、霊が顕在化することなく、霊が存在しないかのように追い払い、ボギーマンのような噂と強迫観念の並行現実を作り出す。ここでは、実際には存在しないにもかかわらず、奇妙な人格や前世からの同族を餌にする者はいない。

このように、非現実的なものにはすべて時間を超越した歴史があるが、何かが、何かを恐れている。この恐怖は、私たちに5次元の地平線、多角形と直線に運ぶが、超越的で神智学的な思考の半球を表す痕跡には影響されない。

アイデアは、抽象的な理性のフィラメントの上で花開いたり成長したりするものではない。衝動は、すでに見たキャラクターから生まれ、記憶され、模倣の動きやその場への適応、すべてが意識的で最小限の計算の上に成り立っている。計算がなければ、雷は現実であり、予測不可能である。

過去の光の中で

過去の影に生きる者たちが召喚され、彼方からやってくる瀕死の存在たちが、目前に迫ったハプニングの中で、現在進行形で天体を侵略する。

すべては、さまざまな強さの光り輝く事柄、エネルギー的な放射に集約され、過去とは結びつかない。

過去の瞬間過去の光は有害な放射線を発するが、瞬時、衝動的、瞬間的にスイッチを入れたい放射状の光を弱めることはできない。

過去は現在、瞬間、衝動と刻々と絡み合っているが、そのエネルギー的な流れや光輝に影響を与えることはない。私たちは常に、風を切り裂く恍惚電流の力強く澄み切った光に間に合い、光を放つ喜びや照らされる喜びを中心とした動きの意図を排除した快樂をもたらす。重要なのは、電氣的衝動を解き放つ強烈な電流のパワーや電圧であり、それは単純な視線を通して、過去の光、それほど強くない光、過去世からの放射を伝えるが、それらは、一瞬のうちに経験される仮面のない光の衝動の動きによって解き放たれる光の原理を導くものではない。

どの光も他の光より強くないからだ。それは放射線の問題であり、誰もが自分自身の純粋な光を持っていて、意志と想像力を渴望し、発展と創造のための純粋なエネルギーを持っている。

ルミナスマジックはその光に色があり、太陽的でエネルギーッシュなイエローの色合いで反射する。

実際、光はあまりなく、存在の病巣が残っているだけで、目に見えないものを客観化するためにバランスをとっているだけだ。つまり、それは存在せず、現実ではなく、私たちに気づきを与える強力なレイの果実なのだ。

しかし、意識とは何なのだろうか？ 何が本当に意識的なのか、無意識的なのか、それはどんなに意味があることであっても、具体化できない壁なのだ。私たちは皆、瞬間に向かって進んでいる。先入観にとらわれた障壁を物質化し、乗り越えられない鎖だと主張するこの退廃は、実際には本当の障壁など存在しない。欲望と、意識の中に常に存在し、自分自身のためだけに確保されている無意識の光との間に障壁があったりなかったりするからだ。私たちは流れを考えるが、ここにも流れや衝動はない。あるのは、過去の光の中で言われるままに生きる、天空の航空宇宙生物の想像だけだ。ほとんどの人は、光には力や尺度があるべきだと考えている。光は触れない。

私たちは光を観察し、光が消えるまで見つめる。自

然光

このクリアで自然な光ほど一般的なものはない。順応、逆境、葛藤、単純な甘えは、態度や意識的な問題を蓄積するものとして作用するが、それほど深くはない。自然と光の間には衝突はなく、自然は私たちを取り囲み、快適で落ち着いた気持ちにさせてくれる。

空気、それは私たちを取り囲む自然の喜びであり、吹き、走るものであり、そして何よりも、軽く呼吸するのが好きな人にはソフトなタッチのものである。

原子カライト

強力なエネルギー源が私たちを変容と心理的変異で包み込み、私たちはこの核の力による衝撃を感じさせる。この生き生きとしたエネルギーの光は、突然変異を実際に経験するわけではないが、孔雀のように私たちを行動へと導く理解された衝動に浸透する、突然変異の超越的存在の光り輝く衝撃とともに成長する。このダイナミックで明確な爆発的放射の衝動。このようにして、私たちはエネルギー力の頂点に到達し、核剤となり、バランスを崩すことが不可能な光を修正し、解体する。変容、つまり放射線との関係において私たちを高め、力を与える変化ほど強力なものはない。

向精神薬ライト

魔術的な、あるいは調和的な方法で、これらの向精神的な光は着陸し、浮遊し、羽ばたき、私たちを魅了し、吉兆のように望ましい現実を変化させるが、その世界から戻るときには凶兆を暗示する。タイムマシンのように、私たちは現実の次元から離れ、空想の世界、非現実の世界、あるいは快樂の世界へと連れて行かれる。

このように、酸素供給にとって有害な現実を切望する他者の視点から見ると、感覚的な活動や暗黒のエネルギーという第三の次元が存在する。向精神薬の光は、さまざまな視点と官能的な次元で流れ、地歩を固め、それを切望する人々を惹きつける。

そこには散発的なエピソードが含まれる。自然そのものが光であるため、世界、光、現実の間に対立はない。

サンダー

苦くきらめく亀裂のように、雷は荒れ狂い、透明で無定形の光の生存者を地球に送り込む。苦味の天体に避難し、この光と力の流れによって増強された制御不能の怒りを放つ。それは、光と従順な力を欠く闇の中で、これらの極悪な停電に侵されることを許す存在の光を燃やし、養い、エネルギーな雷のマグマで自らを温め、光の幸福を増強する。特異な存在の光り輝くビームの中の光の幸福。

発電機

愛を生み出す愛、あるいは愛を生み出す愛！

この非バーチャルな肉欲と、透明で熱心なキスという感情的な絆を煽るものは、感情的で電氣的な絆のエネルギーを発達させるために不可欠なものである。

このジェネレーターは、朝食であれ、夕食であれ、日常生活のエネルギーを支える水であれ、日々のルーティンの中に隠れた顔を持つエゴや個性に栄養を与える。

仮面や涙ぐましい思いをすることなく、私たちは愛のエネルギーの現実には溶け込み、あるいは、決して切れることのないつながり、腐敗することのない、しかし常に真実であるエネルギーに養われながら、生きている愛と孤独の代表であり、印象的なまなざしの電撃的で突き抜けたエネルギーの愛に溶け込む！

常に刺激的で、欲望に渴いた視線と、単調な日々によって生み出された忍耐力、そしてこの電氣的な環境では何も表現しない斜めの顔。現実の生来の大胆不敵なエンジンのイマジネーションに飛び込んでみよう。動き回る人生にとって不可欠な接触、存在するかどうかのコンセンサスという現実のエンジン、しかし意識的な欲望にはほとんど気づかないが、そこにある他の現実には気づかない！

即座の機会の意味で常に存在し、手段は水のようにすることはできません、そうでなければ、我々は利用可能な手段と資源の愛の発電機の思考に滑り込む。生成する愛については、それは常に接続されており、他の任意の非仮想的な手段を探して、この非常に見下す存在で制御されている。だからそれは、あなたがいつも窒息させたいと思っている魂のかげらの、常に存在する顔の中に生成し増殖させる喜びから、自分自身を疎外することはできない。

エネルギーはひとつであり、その充足感において多文化であり、さまざまな現実を展開しているからだ。私たちはバーチャルであり、イマジナリーである。他者がいるとき、あるいは鏡の中にいるときだけ、私たちは中性子エネルギーの精神の新しい調整エネルギーを隠す。ルミナス・ドラゴンは光を放つことができる！

電流

私たちの存在を毎日流れる電流は、私たちにエネルギーと活力を与え、私たちを明るく活動的な存在へと変える。そう、活動的なのだ。なぜなら、そこには光の力が宿り、あるいは二元論的で抑圧的な現実と直面する病的で衰弱させる抑圧があるからだ。

否定的な極の流れが潜在意識の深い痛みに入り込み、批判的で否定的なやり方で人格を縮小させるのを許してはならない。積極性と超越的な現実、革新と充実の精神を養う化学的・反化学的回路を養うのだ。この充足感は個人的なものであり、移し替えることはできない。快楽を求めて熱狂的な競争を繰り広げ、思考とその伝達の磁気の波に心を引き込むようなものだ。思考の伝達は現実的で磁氣的であり、誰も否定できない回路を発達させ、抑圧された感覚と快楽という時間を超えた空気の中に広がっていく。私たちは皆、最初は外部エネルギーを遮断する存在だが、それが私たちの生きる意志を強めるのだ。

これらの衝動は私たちの理性に影響を及ぼし、時には思考に葛藤を生むが、電撃的な幸福をもたらすこともあり、ポータル興奮とともに私たちを外部の現実へと導いてくれる。

ブルーライト

激しい感情に由来する青い光は、橋を渡り、梯子を渡り、養った感情の力を浸透させ、そのスピリチュアルな可能性を発展させる。

超高感度のビームを持つ青い光は、雄弁な友情の透明な美しさを受け入れ、より強烈で深遠なものを切望する。それは私たちの中に星座を作り、深い感覚の波紋を広げ、ヘルツ波で私たちを包み込む。

このパワーは、ターコイズの色合いで活気のない心に影響を与え、深く永続的な友情に影響を与える。狂気と快楽の魔法のビームを携え、稀に見るトーン・ブルーの美の愛好家たち。フィラメントのたそがれの強さの中で、それは居心地の良い保護的なエネルギーを発達させ、伝え、悪と快楽を苦悩と沈黙と混ぜ合わせる。それは抽象的な思考に迷い込ませる幻想ではなく、現実と想像の快楽を強める強い青い光である。この光に包まれる者は、常に影響を受け、本質的で永続的な友情に限界はない。

青い光は恋に落ち、明らかに理由もなく感情を養い、快楽と欲望の喜びをもたらす。この快楽は圧倒的で、包み込むようなものであり、時間の経過とともに消滅するが、未来の現在では消滅しないエネルギーの蓄積から展開される青い光による興奮の狂乱である。この保護光は常に存在し、私たちが制御不能な光り輝く快楽へと進化するのを防いでいる。

電気ケーブル

不安の活気ある電流が電線を伝って私たちの体を駆け巡り、何か新しい驚きへの希望を煽る。

身動きがとれなくなり、私たちは現実とつながる緊張感を感じ、コントロールされた計算された動きで思考の階段を下り、互いにつながる。

こうした思考の梯子の上で、私たちは行動、顔、動きを分類し、人生の浮き沈みに自分を合わせる。光は、止まることなく私たちを21世紀の現実の狂気へと誘うエスカレーターへと送り込む、

エネルギー、魔法、ファンタジー、すべてが見かけ上調和している。しかし、階段に気をつけよう。誰もが人生のエスカレーターに従うわけではない。誰かに支えられながら、上昇する階段を登る人もいる。それでいいのか、それともバランスの問題なのか。

力のバランスは、各個人の上昇と下降の動きに不可欠である。誰もが助けられたり、支えられたりする資格があるわけではない。努力と忍耐が不可欠である。怪我や中断をすることなく、犠牲の精神に立ち上がれば、思考の光へと導かれる。

外的な力のバランスに左右されることなく、希望に満ちた確かな一歩を踏み出す。あなたは最も重要な電線に到達する。それは生命のサイクルであり、地球を養うエネルギーである。

エフェルヴェッセント・ライト

というのも、それは、後に外的現実直面したときに崩壊する、すべての光の発泡のような幻影だからである。

悪戯と狂気の散発的なエピソードに恵まれた、発泡性の欲望は、膨張し感染する愛のように、あらゆる思考を満たし、自らを支配し支配されることを許す。これは活性化するエネルギーの交換であり、決して消えることのない発泡性である。

イルミネーション・スカイ

星々が生命を与え、思考やアイデアを刺激し、願望を現実に変える、照らされた空の完璧なバランスを達成したいという願望ほど強力なものはない。

星座のエネルギーに照らされた空の美しさは、星々の絶え間ない相互作用を促し、その力は唯一無二である。変化への意志と願望、思考を魅了する星々の相互作用と触れ合いによって照らされた空を持つ魂ほど刺激的なものはない。

エネルギー漏れ

まるで宇宙の現実を理解することを拒むかのように、エネルギーが跡形もなく散っていくのを心配する。重要なエネルギーが、政治的正しさの仮面のように、惰性と感情の結晶化によって窒息してしまうことに失望を感じる。純粋なエネルギーの魂よ、自らを魔法に変え、事実の真実と物事の絶え間ない変化の衝動を欠いた心を飛び越えろ。変化は、私たちすべてが経験し、発展していくサイクルの不可欠な部分であるが、決して恐れや感情の苦悩に導かれてはならない。自分自身を解放し、拡大し、そして何よりも、人生の変容、私たちを駆り立てるその変化を受け入れるのだ。

生命の光

激しい情熱は狂気へと突入する。

なぜなら、私たちは本能的に愛し、愛されたいと願っているからだ。

情熱と失望は、さまざまな幻想への道を開く。

惑わされ、愛に溺れながら、私は偽りを超越した真の愛の本質に集中する。

愛される者の行動の場で裸になり、私たちはその存在の真の姿に直面する。したがって、愛されるには、なぜ自分が愛されているのかを深く認識する必要がある。愛を与えることと受けることの間には必要な二項対立があり、この弁証法は $1+1=1$ を前提とするが、実際には誰も何も享受することはできない。

つまり、論理的には $1+1=2$ 、正しい。しかし、その結果、態度、価値観、行動全般が技術的に平等にならなければ、行動は生産的なものにならない。したがって、恋愛関係の真ん中には一致した立場がなければならない。

理解されれば、この唯一の真実が喜びの源となり、あるいは個人主義的な個人が真の自由として理解される別の行動を求めるようになる。

論理的か非論理的か、それは人それぞれだ。私は絶対的な確信を求めない。時々、自分を愚か者だと思ふことがある。しかし、今では本物の愚か者を見つけるのは難しい。本当にその役割に自分を置く人は、自分で結論を出すべきだ。

私はそのためにここにいるのではなく、狂気を警戒し、ある種の態度を避けている。狂気とは、特定の状況や他人の判断によって決まるものであり、多くの場合、置かれた環境によって左右されるものだからだ。

この推論から少し逸脱して、私は何人かの人を好きになることに狂気を感じ、私たちは決して完全に満足することはなく、もっと愛が欲しい、もっと愛が欲しい...と思う。

なぜそんなに野心的なのか？私はその質問を撤回する。私たちは皆、恋愛で過ちを犯す自由があり、傷つきやすく、しばしば操られる。

私たちは、愛されているから愛するのだと信じたい。この感情が、愛情や生きる知恵を呼び覚ますのだ。愛するという行為、そしてその愛をはっきりと自発的に表現すること、「私は愛される権利があるから欲しい」と言うこと。だから互いに愛し合い、涙も痛みもない道を、一体となった意義深い努力によって人生に光をもたらすのだ。

原初のエネルギーを最大限に提供してくれるこの素晴らしい存在を楽しもう。

その光は、太陽系全体を照らすビームとして再生するんだ。

愛の光は決して遠くの地平線に留まることはない。

方程式を大きくして、 $1+1+1+1+...$ とする。=無限大。

愛の分野には磁力があり、欲望を知り、満たしたい、あるいは単に楽しみたいという欲望を引き寄せる魅惑的な力がある。

エネルギー協会

光 - 熱 - 太陽 - パワー - 隔離 - 唾液 - キス - 分かち合い - 感動 - 喜び - パーティー - 誕生日 - 年 - 年齢 - 老い - 忍耐 - 忍耐強さ - 達成感
- 犠牲 - 痛み - 癒し - 医者 - 健康 - 活力 - 精力 - 力 - インポテンツ - 欲求不満
- 苦しみ - 倒れる - めまい - めまい - 狂気 - 狂気 - 病院 - 入院 - 剥奪 - 欲望 - 意志 - 欲しい
- 勝利 - 征服 - 戦闘 - 戦争 - 死 - 損失 - 消失 - 不在 - 孤独 - 思想 - 創造 - 発明 - 嘘 - 残酷 - 不道德 - 罰 - 懲戒 - 叱責 - 罰金 - 警察 - 保護 - 警備
- 安定 - バランス - 不均衡 - 異常 - 病気 - 精神医学 - 精神医学臨床 治療 ヘルプ 注射 看護師 モルヒネ 薬物 錯覚 幻覚 不安 神経 緊張 戦い レスラー 勝者 レース 競争 アドレナリン 恐怖 疑い 尋問 質問 答え 質問 好奇心 興味 満足 快感 オーガズム 感覚 意識的 責任 罪の意識 無垢 自由 正義 正直 真実 誠実 透明 不可視 非現実 存在しない 想像力 創造性 夢 眠り 休息 静謐 STOP サイン シンボル 凶面 鉛筆 消しゴム タイヤ 道路 旅 運送 電車 線路 針 ピン 縫製 操作 介入 変更 移行 ステップ 分類 索引 用語 単語 フレーズ 対話 コミュニケーション 表現 デモンストレーション プレゼンテーション 導入 前文 入門書 葉木 自然 風 空気 海 火 地球 太陽系 エネルギー 光 パワー BLUE RAY.

エネルギーの活性化

不満は満足で経験する。

繁栄の輝き。

私はあなたの宇宙を彩るすべての色。麻痺

する光

感情、感覚、刺激を生み出し、行動が進行中であっても、私たちを立ち止まらせる何かがある。誰かが反応し、反応しているのに、なぜ立ち止まるのか？行動には忍耐と知性が必要なのだ。

直面する他者を理解する。まるで答えのない子供のように、私たちを麻痺させるエネルギーをなぜ解放するのか？

勇気よ、親愛なる友よ、この言葉は裁かれるための命令だ。誰が正常で誰が異常なのか...誰もわからない！

私たちは皆、信仰を持っている。そして、幻覚のような響きで魅惑的な音を暗示するハープのように、意志への疑念と遍在する欲望がやってくる。

時にはリラックスして耳を傾けることも必要だ。私たちには2つの耳と1つの口があり、話すことの2倍聞くことができる。沈黙は甘えでもコントロールの欠如でもなく、行動なのだ。沈黙に耐えられる人は少ないが、沈黙を経験することで、多くの主観的な疑問に答えることができる。沈黙は無言だが、衝動的な欲望に対する完璧な武器になる。だから落ち着いて、耳を傾け、自分の中に宿る静寂に耳を傾けよう！

ある日、私が稲妻になったとしたら、破壊的で、恐ろしく、騒々しく、容赦がないだろうか？

人間と同じように、それぞれの光線には独自の特徴があり、明確な行動様式と独自の光がある。だから、いつか私が光線になったとしたら、少なくとも私はオリジナルな存在になるだろう。

それぞれの光線にはそれぞれの行動様式があり、人と同じように、行動はいつでも一瞬のうちに起こる。

私たちがコントロールできるのは光線なのか、それとも存在なのか？運命に関して、私は初めて神の名前を口にしようと思う。あるとき、コーランの信奉者と信念や信仰について話しているときに、次のような話を聞いたことがある。サイコロを渡されて、神に最高点を熱烈に求めたが、結局最低点を出してしまったとする。つまり、サイコロを投げたのは誰なのか？

この話を超えて私が言いたいのは、私たちも光線も、私たちがいる環境の中で行動し、それぞれが独自のエネルギー、形態、行動でサイコロを振っているということだ。

人生の光で卒業した父の教え

私の人生に父の教えを与えてくれたことに感謝したい。結局のところ、こうして私たちは形成されるのだ。人生に気を配り、周囲のすべてに敏感であることによって。

ラディアント・モーニング

カナリアの歌、魚の優雅な泳ぎ、木の酸素供給で目覚める私の世界は、素晴らしい経験だ。

仲間を紹介しよう：

メロディアスな歌声で魅了するピントス・カナリア。

スマーティー・フィッシュ、水中を静かに滑る。

そしてアマゾナス盆栽は、生命を吹き込み、鼓舞する。

私の世界には、この3人の素晴らしいインスピレーションを与えてくれる存在に加えて、今は亡きソビエト社会主義共和国連邦を含む20年前の世界を象徴する地球儀が窓辺に飾ってある。1本は忍耐を象徴する元の色で、もう1本は希望を表す深い緑色で描かれている。私は、この完璧な私の世界で、輝く朝の下で、邪魔されることなく書き、想像し、感じ、友愛の結合のバラを想像したいと願う愛する魂に私の言葉を捧げる。

いつもとは違う現実を目覚めて、書く分野を探求することで自分の存在が広がっていく。

思考がどのように伝達されるかを考えてみると、私はそれを光とその力に例えている。

私たちが皆、さまざまな視点から物事を考えるように、現在の視点に従うことも重要だ。

魂には動揺する瞬間がある。

私たちが自分自身を見る目は、必ずしも単純ではない。

エネルギーは拡大する。

悪い行いをする乱れた心が蔓延している。

ユニゾンの声は一人の声より大きく聞こえる。

言葉は表現の芸術だ。

その瞬間から、インスピレーションは存在する。

心臓の鼓動には独自のリズムがあり、それが静脈を通じて広がっていく。

抑圧は静かに起こる。

すべてのものには目的がある。

悪について考えることは誰にでもある。

時には沈黙することもある。

誰にでも考えがある。

記憶は常にあるわけではない。

憎しみは有害だから避けなさい。

誰もが適切なタイミングでチャンスを得られるわけではない。

私たちが苦しむのは、それを許しているからにほかならない。

誰にでも表現の自由がある。

真実ほど正直なものはない。

私にはさまざまな表現方法がある。

元気でいることはバランスを保つことだ。

バランスはルーティンのサイクルで成り立っている。

緊張することはバランスを崩すことだ。

人々は自分の意見を持ちたがる。

誰もが自分の中に純粋さを持っている。

太陽は生命エネルギーの源である。

普遍的な愛は思いやりを生み出す。

異常なのは行動がないことだ。

アイデアは多いが、信念は少ない。

取り返しのつかない状況もある。

誰もがどこかで不公平にさらされる。

愛は喜びをもたらす。

私たちはしばしば孤独を感じ、守られていると感じる。

深く考えることを避けたがる人もいる。

意識は啓蒙的なランタンのように私たちを導く。

創造された想像上の困難、あるいは現実！

困難と問題：潜在意識と意識の相互作用。

意識と充実感。

無意識と投影。

存在への自己の投影。

私は存在し、ゆえに私たちは存在する。

私たちはひとつの私であり、ひとつの世界である。

世界が、私が、私たちへと変わる。

私たちはこの世界、そして彼ら、私たちに対して行動する。

私はあなたの一部となって行動する。

あなたは彼らの上に立つ。

彼らは世界であり、存在の世界なのだ。

生物でないもの、あるいは無生物であるもの。

光を生み出し、光を捕らえる。

光はエネルギーであり、エネルギーは力である。

力は欲望であり、欲望は欲望である。

望むことは現実であり、私たちは皆、本物を達成することができる。

現実とは事実であり、行動である。

行動とは世界への応答であり、行動する世界とは変容である。

変革は修正であり、変化は現実である。

変化とは永続的な欲望であり、私たちは常に欲望の軌跡を辿っている。

欲望は抑圧されるものであり、私たちが望むものすべてが世の中にあるわけではない。

手に入らないもの、存在しないものに対する不満、非現実的な非存在。

非現実的で、達成不可能で、実現不可能な思考の絶望、存在しないもののために苦しむ絶望。

存在しないものは欲望を引き寄せる。存在しないものを望めば、幸福は得られない。

幸福とは欲望を満たすことであり、不幸とは実現不可能な欲望が実現しないことである。

うつ病 満たされていない、実現していない、非現実的であるという心理状態。

この世界には非現実的な事実が存在し、力、そして事実は、手の届かない、到達できない、スピリチュアルな世界だと推測されている。

スピリチュアルとは自己の感じ方であり、私たちは皆、スピリット、スピリットの素質を持って生きている。

モチベーションとは私たちが駆り立てるものであり、行動への衝動であり、行動とは行為である。

他者への行動、他者、彼ら、彼ら、私。

私対彼ら（世界）、社会的世界。

学習 行動の 行動の学習 学習 知識の
知識の学習、現実の事実の知識、知識の武器。

私と彼らの間の知識の伝達。

私たちは知識の世界であり、誰もが何らかの知識を持っている。

知識を共有することは学ぶことであり、学ぶことは共に生きることであり、共に生きることはコミュニケーションすることであり、コミュニケーションすることは関係することであり、関係することは交流することである。

交流することは世界に働きかけることであり、世界に働きかけることは世界を変えることである。

知識によって世界を変えることは進化であり、進化することは知識を得ることである。

知るということは、知識を無限の知恵に満ちた多文化世界へと変容させる方法を知ることである。

賢明であることはユートピア的であり、ユートピア的とは達成したいという願望であり、意志である！

意志とは内なる強さであり、内なる強さは自己である。真理はひとつ！

宇野は私だ！

我々是一个の世界だ！

私たちは彼らであり、私たちであり、あなたであり、存在なのだ。

成長することは存在することだ。

存在することは存在することだ。

現実に存在する。

私たちが存在し、私たちが世界であることは事実だ！

生物と無生物の世界。

世界は私によって、あなたによって、そして彼らによって変えられる。

世界は進化している！

進化するとは、より知識を深めることだ。

知識があるということは、知識を持つということだ。

知ることは知ることだ。

知ることは経験することだ。

経験することは感じることだ。

感じることは知ることだ。

私たちがそれを感じるのは、それを経験したときだけだ。

やりたいと思ったときだけやってみる。

望むことを経験する自由という選択肢。

その通り、尊重されるべき義務だ。

そうしたくないし、わからない。

私たちは知らないし、変身もしない。

世界のさまざまな自分が獲得した知識。

わからない、やってみたい、誰かに聞いてみたい！

人間関係は、私と彼らの経験から引き出される。

他の人がすでに経験した間違っただけがあり、それが良くないというのは常識だ。常識、人生の知恵。

経験を共有し、知識を得る。

交流を通じて、交流することは変容することだ。

世界は相互作用であり、世界は私たちである。

世界は私であり、あなたであり、私たちであり、あなたであり、彼らである。

分かち合い、友情、共犯。

価値観を共有し、いくつもの結び目を持つ同じ私。

私たちは社会だ。

私たちには友人がいる。

自分たちの間で行動することで、彼に影響を与えているのだ。

それは、世界、世界の影響、変容。

変容：新しい私、私たち、彼ら、あなた、新しい世界、新しい現実。欲望

キスをちょうだい...あなたが知っているようなキスを...！

欲望が高まったときに交わしたような、隠れたキスを.....。

キスして...ソフトな...優しい...知ってるでしょ

思いやり...かわいい...あなたを知っている

キスをしよう...

不眠症

私は眠らない。眠りたくないから、生きたいから。

この障害が私を眠らせてくれない。

不眠症と向き合う。漫画 狼の

影

シャドウ・ウルフは行方不明だったが、今は見つかっている。

保護されているが、それは選択によるものだ。

彼はその器用さを化学物質と必要不可欠な水で養っている。

自分の影の純粹さの中で、彼は冒険に飛び込み、カリクアオに避難所を見つける。

ウルフが守られたように、しかし孤独な選択によって、明らかな孤独に浸っていた。

今日、私はロボ・カリクアオとともに、彼の世界と向き合い、それを解釈しながら書いている。

自立した友人であり、野性的な性格なしでは生きていけないが、人生の真の新参者のように慈愛に満ちている。私が卒業したカリクアオで生まれた彼は、忠実で誠実な若者の血を受け継ぎ、何よりも恐れを知らない性格で、本質的には獰猛だが、忠実で友好的で仲間を尊重する。

従って、忠実な旅の伴侶であり、共犯者であることは、常に愛情と沈黙をもって解釈される。

私はカリクアオとその周辺の通りの影を知るほど長くそこに住んでいた。

私はオオカミの中に勇気を見たし、彼は信頼し、無言で、自由を法定する友情の絆を築いた。

オオカミが持っているものといえば、それは自由である！

シャドウ・ウルフ、その存在形態は人外の光り輝くエネルギー。

吠えることで、遺伝的な性質からくる野生の独立性を押し付けているのだ。

私は、オオカミ、いやソングラ・ロボ・カリクアオとそれぞれの夕食を精神的に分ち合うことにした。彼らはひとつの料理とそれぞれの飲み物によって自由で友愛の絆で結ばれていた。

私たちは孤独なのか？

もちろん、自然が私たちをどのように形成するかについて考えるのは自由だ。

今年のクリスマス、ウルフ・カリクアオは私へのプレゼントであったが、彼は生来の遺伝的環境による野生児であり、染色体に引っ張られ、その本質にある自由で純粋な感覚に向かっている。

彼の生き方は謎めいているが、生きることへの渴望に燃えており、いかなる制約や押しつけからも解放された孤独な一面を楽しんでいる。

私とソンプラウルフは友人だが、他人のプレッシャーに対して型破りな方法で行動するという点で変わっている。私たちは母なる自然によって自由であり、そのため私たちは成長し、私たちに影響を与えるものを誘発する。

ハバナ・クラブは、革命を渴望し、自らの存在を支配しようとする狂気のエッセンスである。これは犬の本能の協力による、自由だが孤独な協定である。

恍惚としたコミュニケーションについての考察、私たちを隔てる沈黙のわずかでシンプルな反響で理解できる。

行為とは、拒絶という単純な刺し傷でさえも、痛みを表現するものだ。
。

物理的には乗り越えられない障害だが、光り輝く存在のホルモンや精神的な化学反応にとってはそうではない。

真の愛を開花させるために、天の身体が私たちに侵入してくる。

愛というクローバーを探し求め、多面的な存在を理解することにこそ豊かさがあるのだから。

またひとつ、思いやりと優しさへの欲求が高まり、社交界における代表的な自尊心へと昇華する。

唯一無二の自己の観点からすれば、輪の中にどれだけ多くの欲望が生じようとも、いかなる意志も疎外されることはない。

誠意、忠実さ、尊敬、そして何よりも義務という黄金の輪は存在しない。

私たちは純粹で野性的であり、自己の視点が常に他者を侵している。

単純な考えの対立に影響されやすい興奮した心では、常識に訴えることが急務である。

私たちが屈服しなければならないとき、あるいは自己と他者の間に割り込まなければならないとき。

望まないものを拒絶することほど一般的なことはない。

愛すること、LOVEとは、自己ではなく他者を感じることである。

私たち生き物をつなぐ建設的な態度は、生き物が他の生き物とともに持つ調和を必要とする。

本能的な行動に刷り込まれた私たちは、自己のことしか考えず、次に自己のことを考え、そしてまた自己のことを考える。

"I"が"I's"に変換されるから対立するのだ。"I's"がいくつあっても、私たちは相手に屈服するまで耐えなければならない。

自分自身を見限るように常に誘っているようなものだ。

仮面をかぶった自分自身と、私たちが持っている利己主義のレベルに注意を払うこと。

私」の鎧は、「私」プラス他の「私」である存在する「私」によって、いつか破られる。

ああ、もしあなただけが知っていて、それを望んでいたなら.....。

なぜこのような無駄な不安を抱くのか？

君はあそこからここまで来たんだ。それがどれほど完璧なことなのか、僕にはわからないし、気づかない。

私は目覚め、目覚め、暗闇から抜け出し、ノスタルジアを感じることなく、情熱と欲望とに巻き込まれた。

強烈なキス、強いハグ 与えたもの、受けたものすべて何も聞かずにそれは存在の再生から生まれる。痛みなし

見た、願った、生きた
そして、彼らが私に与えてくれた
ものすべてを思い出した。

彼はもはや主張せず、愛、愛情
、思いやりを与えた。
すべては情熱のために
決してノーと言わないその
言葉

フリーで待機
求めてもいないものを与え
る。
それは真実であり、求める
ことなく、要求することな
く与えることだ
ノーと言われたい
なら、聞かずに与
えよう

平和を求め、万
能薬を見つける
比類なき宝物 ただの宝物
金ではない永遠
の愛
あなたは私が何を望んでい
るか知っていた。
何か深いものがあることに気
づいた。
それは所有することなく
力であり、見ることなく
現れ、私の中で成長した
。

それは愛であり、私が切望して
いたものだった。

しかし、私はそれを所有してい
なかった。

夕暮れ時に咲き誇る姿を見
たいものだ

すべてが起きている

恐れることなく

ためらうことな

く 眠り 温かな

孤独

心臓に手をあてるように。

私はあなたを見なかった、でも私はあなたを知っていた、あなたを感じて
いた

香水は彼女のものだった

サンダルウッドとジャスミンの香り

私は耳を傾けたが、聞こえなかった

しかし、私は気づいた。

私はその場にいなかったが、私は知っていた。

昨日は同じだったが、今日は違った

見た、嗅いだ、聞いた

面と向かって

それは特別なものだった

痛かった。

呼吸をしていた。

私はあなたのために息をした、私はあなたを見なかった、私はあなたを感じなかった

そして、それは終わりではなかった

あなたが遠くにいてくれたから

遠いが存在する

私は僧侶に尋ねた。

進むべき道、未来を示すために

そして、私はあなたがそこにいたことを推測した

背景は窓の外

会わずに、与えずに

私は空気であなただを包んだ

私はあなたを海に連れて行った

海の匂いを教えてあげる

湿度と喜びを呼吸する

それが私の見たものだ

海、砂、湿気、空気

そして、そう、あなたの呼吸

。私は思慮深くタバコに火を
つける。

私は行間をさまよひ、アイデアを頭の中
中に流し込む。

書き手と読み手の間

私は自分の書いたものを最後まで
読んだことがない。

彼らはそれを気に入っているのか
、私が伝えようとしていることを
理解しているのか、それとも何か
漠然としているのか.....。

タバコの火が消えてしまった。

よくわからないが、私は精神的・知的解放の一形態
として書いている。

それは私にとって良いことだ

私を読んでくださる方々には、ハ
ッピーで元気でいてほしい。

最近、私はより直接的な書き方を選んでいる。

光とエネルギーのためでは
なく、愛と理解のために。

慈愛に満ちた言葉が響く

より多くの読書を楽しむ人のために愛情
深く、分別があり、私の腕は愛と信頼に
開かれている。

葛藤することなく、自分の言葉にアンビバ
レントであることを望まずに。

私はより直接的で客観的だ

。

読み手と書き手を結びつけるこの感情。

自然体でありながら、親しみやす
い言葉を使う。

文章を構成する

常につながりがあり、非常に現実的であることを願っている。思慮深い言葉、瞑想的なフレーズ。

考えさせたら申し訳ない

。

たとえ不条理なことであっても、それは存在するものだからだ。

ただ、自分も存在していることを伝えるために。

フィリペ・モウラのようなスタイル

私を読んでくださる
すべての変わった人
たちへ

私は自分の書いたものを読む忍耐力がないことが多いからだ。

正直言って、私はほとんど本を読まない。

これが私の挑戦だ
読み、読み続け、そして内
省する。

感謝し、幸せに思う
他の誰かがそうしていると思うから

思い！たぶん、
あなたはそれを
感じていない

石に降る雨のように感じる

舗装の穴を貫通する

砂と土の下の連合体

厳格で厳しい接続

部屋もスペースもない

他の石ではない

効果的な比率は以下の通りだ。

石、土、砂

その上を歩く

人間関係も同じ

コールド・ストーンの相互作用

砂や土の有無にかかわらず

しかし、石工の手によって結ばれた

誰が彼らを統合し、完成させたのか

愛は全地球上にあるべきだ

石畳のように団結しよう

レンガ職人は男だ

複数の石をつなぐ

石の心を縛ることはない

しかし、柔軟な感情

他の作品へ

我々はアンサンブルであるべきだ

組み合わせられた部品の

あらゆる重量に対応可能

時間の消耗もない

歩いている舗道を壊す勇氣

そうやって人々は

余分な負荷に耐える

しかし、もし彼らが団結すれば

影響は少ない

愛で別の作品に参加する

愛は私たちを結びつける砂となり、大地となる

弱点はない。

すべての部品が揃っていれば最小

そして、よくフィットしている

人間は自分自身を完成させる

ストーンと合流

共に強く、道を形成する

世界中で長く堅実

それはレゴのように私たちを結びつけるものだ

不滅の要塞がここにある

すべてが一体となり、完璧

すべての石が磨り減ったら

砂を敷くだけ

石にも寿命がある。

石のように、人は入れ替わる

消耗と寿命のため

小さい石、大きい石、中間の石がある

自然にフィットするものもあれ

ば、磨く必要のあるものもある

。

正しい位置に収まるまで成型され

る

すべてのピースが組み合わされる

ジグソーパズルのように視覚化す

る。

誰にでも居場所がある

ジグソーパズルのピースがなければ、

何ができるだろう？

私たちは皆、世界で必要とされている

地球はすべての男女を必要としている 誰も消耗品ではない。

存在、在り方、そして他者とのつながり方

ここに巨大なパズルがある：地球

私たちは知らず知らずのうちに互いにつながり合っ
て生きている。

まっすぐな人もいれば、曲がっている人もいる、

しかし、すべてがうまくいくのは当然

のことだ。

この "舗道" は存在同士の調和であり、誰も
が同じ目的のために協力し合う。

68

買収された

あなたはお金を持っていて幸せだ

見たことがない

表情がすべてを表す

勇気がいる

ありのままの自分を受け入れる

私たちは完璧ではないから

完璧な人間などいない

なぜなら、いつか富が

エッセンスを入れ替える

そして、真正性なくして富はあり

えない。同じ痛み

同じ熱情

が愛の情

熱だった

それは私たちの想像

力だった。

空想から現実まで、

私は情熱に、愛に、

忠実である。

あなたの素晴らしさに

よって、私は存在し、

私は私たちの世界の俳

優なのです。

あなたは無声映画女優、でも私た

ちの旅は

これは映画だ

私たちの熱情を見よ

」と歌うロマンチッ

クな映画から

痛みのない愛"

あなたはそうか

もしれない

私は

それなら、私たちは

私たちは一緒にいる

私たちは観察し、見る

同じビジョン

同じ運命

同じ地平線

私たちの歌

同スペース

すべてがフィットする

すべてを持っていく

私は次のことを計画している。

理想化

懸命に働く

同じルートで

同じ道で

呼吸とため息

あなたはいつもため息をつく

あなたは未来を恐れていた

難しかった

苦しむあなたを見て

痛みを感じることなく。

傷

それが人生だっ

た。

分からない

なぜなら、私はこう想像しているからだ。

想像力は常に信頼できるものではない

しかし、私はそう思う。

遠く離れていても、私たちはつながっている

私たちはただそこにいなければならない

我話せば君答える

どこにいるかは知っている

わからないものだ

もし私がそこにいるなら

しかし、私はあちこちで自分自身を見つける

そして、私はいつもあなたとともにいる

まだ分からない

私には想像することしかできない

しかし、私は良いことを想像している。

制限なし

障害なし

それは君と僕だ

私たちはいつもここにいる

一緒にいても、離れていても、私たちはつながっている

相互接続、あなたが必要

私のあなたも

あなたは行動し、私は反応する

あなたは笑い、私は微笑む

あなたが言うなら、私もそう思う

あなたが見て、私が見る

そうだね。

私たちは常に同じページにいる

あなたを待ち望んでいます

あなたが欲しい

キスのために

旅行中

走る

フライト

私はいつもつまづく

しかし、私は倒れない

怪我もしない

あなたは治療薬

私の願いのために

約束する

あなたに会うために

そして、私はすべてを見つける

何も知らなくても

なぜなら、私はすでにそれを想像していたからだ

未来の姿

私はあなたを見て、あなたを感じた

そして、あなたも同じように感じた

あなたは私が書いたものを読んだ

そして感じたのは

私の近くにいてほしい

いつも私のそばに

動揺に打ち勝つ

しかし、戦いはない

申し訳ありません

誰も悪くない

あなたが見たいのは

見なくても

知っている

どうだろう

それが現実だ

征服は現実だ

それは単なる想像の産物では
なく、洞察力の賜物だった。

ミスなしヌルま
たはゼロ

誰も試合から離れるな

ある人が次のように言った。

お望みのもの

充実感

一時の幸せ

野心は征服し、征服し続けることだからだ。

だから、達成できて嬉しいよ

挫折を味わった。

常に多くを望む

何でも結構です。

そして今、私は幸せだ

でも、もうひとつの願いがある。

だから、天才さん、私を認めてください

つの願いではない

だが	はい	a	あり	の	願い
E	アレ リア ダイ		今	M r	ジーニアス
いいえ					消える
そんな気が する 物			もっと見る		いずれも

図

...記憶し、感じるに越したことはない

憧れ

何かを作りたい気分だが、漠然としすぎている。想像すること、創造すること、変容すること。誰かに読んでもらうために書くこと。何が、なぜなのかはわからない。インスピレーションが欠けているのだ。書くことと読むものがあるというこの状況に立ち向かうために、私は立ち向かわなければならない。私は考え始め、手放そうとする。簡単なことではないので、あきらめようと思う。

冒険や不運を語る日があるとすれば、たった1日だけだ。1年もない。年経った今日、私は50日を見ることが出来る。1年365日、1週間7日、1日24時間だ。この1年365日、1週間に数日、60日、24時間のうちの数分間の50日間の瞬間の断片がここにある。とにかく、今を生きよう！

理解することで、何が起こったのかを論証し、明確にすることができる。私は何が起こったかを超えていた。私はただ、それがどこで始まり、どこで終わったのかを知りたかっただけなのだ。

どんなことが起こっても、その結果が予測できなくても、私はあなたのことを忘れないし、どんな状況でも私たちの愛に頼ってほしい。

私は暗闇を覗き込み、夜の深さを見た。リラックスしてラジオの音楽をかけ、自分を解放する時だった。夜は仲間であり、私たちは最も繊細な感覚を共有することができる。私はこの夜のことを「沈黙の夜」と呼びたい。なぜなら、夜はいつも耳を澄ましているが、ほ

とんど何も話さないからだ。

全世界に囚われた生き方とは？不安を和らげる自由の息吹。この閉塞感は緊張を高め、神経は人知れず震える。そして束縛が緩み、結び目がほどける。もっと平凡な、あるいは官能的なものの中で、自由に自然であることがどんなものか。

それがどのように機能するのか想像すらできなかった。それは、私が想像し、表現したものを書くこと、持つことだった。その姿、私の存在、ただ存在すること、感じること、見ること。私は心に浮かんだことをすべて書き留めていた。私はそれを楽しんだ。

この孤独で、個人的で、無目的な立場。忘却の彼方へと突き進むこの方向感覚の喪失、感情や呼吸、そして信じたいという欲求の完全な喪失。これは、生きていけば誰もが直面することだ。

視線ひとつ、ため息ひとつで、タバコの煙が広がる。一服、また一服。時計を見ると、刻々と時間が過ぎていく。タバコの火は、私が常に探し求めている何かを求めてゆっくりと燃えていく。この瞬間から、また一服、時間が過ぎる前に一言。この中毒がなくなることを願う。

私は抽象化されていた。戻ってきて、夢中になって、少し混乱していた。少し奇妙だったが、夢ではなかった。私は目覚めていて、サイコロを投げる準備ができていて、心の赴くままに前進していた。それはうまくいったし、私はその姿を想像したし、何よりも、それは私が創り出し、そして生きていかなければならないものだった。私の存在、それは生きることであり、存在することなのだ。

物事を変容させるものがあるんだ。それはすでに何かであり、何かであったものが何かを引き起こす。でも、それが変容して、本当にそのものになったとき、それはすでに何かだったんだ。とにかく、人生というものは！

それは飛ぶ者の下にある霧であり、ただ呼吸するための空気だった。恐れることなく勝ちたいと願うこと。海辺の月明かり。私は船長であり、航海のすべてを手にしていった。勝利のイメージが浮かび、それは達成感だった。

そこに6タール...

あなたが求めないとき、求める必要がないとき、求めたいときにそこにいること。私がないときでも、あなたが私を感じないときでも、あなたが私を呼ぶときでも、あなたが私を思うときでも、そこにいること。あなたが想像するとき、たとえあなたが望んでもいないときでも。あなたが私を愛するとき、あなたが存在するとき、あなたが私を夢見るとき、私はただそこにいる。私がここにいるとき、いつもそこにいること。それが私の考えだ。

ある日、もし私があるあなたを見かけたら、あなたは興味深い女の子で、瞳には何か輝いていて、明るく、きらきらした微笑みを浮かべていたと言うだろう。あなたは、美しく官能的で、私を誘惑し、その感じ方だけで欲しくなるような、彼女を求める人のための女性だった。魔法は好きだった？それは私の日常だった。

ある日、これから起こることをすべて想像したんだけど、後で書こうと思っても何を言えばいいのかわからない。何が起こるかわからないという夢は、本当に怖かった。私は決して見ることのできないものを描写しようとし、存在し、誰かが苦しんだ沈黙の世界への旅をここで終わらせようとした。他の人が勇気がなくてやらないことを、ただやりたくてやる人はいないと思う。彼らは行動しないが、見て見ぬふりをするのができない誰かの幸福を無視する方法を知っている。

タバコを止めて考える！

私はタバコのスイッチを切り、残された渴望を治す挑戦が始まる。祓い清め、創造するために書く。分経過し、書くことと自分以外の何かを持つことの真実が始まる。できないような気もするが、同時に最も真実である征服のための戦士のような気もする。タバコの火を消してから16分が経ち、再点火への欲求が高まる。

起こっていることを感じれば、すべてが過ぎ去る。私は考えているから、あなたは待つしかない。弱さから勝利への衝動まで、すべては夕暮れのようにやってくる。私は常に欲望と接触している。過ぎ去った1時間の後の30分を思い、自分を見て、時間を超えたい自分を感じる。私は秒単位、分単位で、まるでロケットが前進するのを祝うように旅をしている。

これまでの歩みを思うと、頭がくらくらする。火のついたタバコがあるので、一步後退。35分後、私が取り消したい行為がここにある。何も考えず、機械的、手続き的にやったことだ。この状況を消し去る過程で、私はこの行為にアクセスした。私は今、創造の自発性

に戻っている。行動とつながりを持った言葉、文章。

ラジオで計画が失敗するかもしれないと聞き、そのことを考え、方向性を感じる。また45分、またタバコを吸う！すべてが、ほとんどすべてが、私に考えさせ、私はそれに直面しなければならない。1時間で、30年分の20年分の結果を出す。人生の66%は、33%が与えてくれる100%のことを考えて生きている。

複雑な説明だった。もし本当にそうしたいなら、私は戦い、その方法を研究しなければならない。それは簡単なことではない、私はもう "一本" もタバコを吸うことはないだろう。時が来て、私は何の計画もない道をたどる。もちろん、その状況について吸うつもりだ。私の性質は純粋さを含まなければならなかった。2時間3分が過ぎ、私はタバコを吸い、そして考えた。

何かが生まれる。私はまず微笑み、何かが起こると思った。一番簡単なのは諦めることだった。私は強くなり、「勝った」と言うことしか考えなくなった。不自然な何かが異常だった。どう反省すればいいのか。一番いいのは寝たふりをすることだ。衝動が来ても逃げない。光はなくてもエネルギーは尽きない。決して影を落とさない雷の力を感じる。私は変わる。今度こそ、すべてを変えることをためらわない。私は行く。静かで平凡なタバコ、ためらいといらだちのようなもの。

いつかカモメが来たら、あなたを連れ戻すようお願いしよう。私は何も望まなかったのに、すべてを失うことになった。あなたがいなかったら、私はどうなっていただろう.....描写はこの情熱に包まれ、私には計り知れない愛があり、いつもそうだった。私は走ったが、彼は私をつかんで引き離し、私を連れて行った。あの忌まわしき姿は、目に見えず、雨の中で私があなたに言いたいことを絵葉書に書いていた。私は太陽の絵とその光線を描き、あなたは私のエネルギーであり、あなたのために私の太陽はいつも輝いている、たとえ雪が降る日でも、と伝えるだろう。それは、いつも風が吹いているという思いだった。

考え、反省し、行動するかしないか。表現するのではなく、感じるのだ。感じること、表現しないことがどれほど難しいことか。ただ存在しているだけで十分なこともあるが、反応する前に反省し、あたかも感情であるかのように処理し、ふりをする。あたかも思考をコントロールするかのように。

すぐに行動するかしないかは、賢明なことだ。だから素振りをするのは、考えた末に感じることであり、そう、私たちが感じないかもしれない反応なのだ。時には思考を封印し、ただ存在することを意味するプレゼ

ンスにとどまることで、反応しないこともできる。

障害

障害はショーそのものではない。恐れることなく乗り越え、時には痛みを感じることもあるが、大切なのは生きることであり、成長するために戦うことだ。それは時に成長し、学ぶことを意味する。生きるための闘いにおいて、私たちは常に損失や不運に反応しなければならない。障害を克服することは、自己を最大化することなのだ。

克服することは、征服するという究極の喜びであり、自分自身を凌駕し、価値を得るという正当な価値を自分自身に与えることである。生きることの本質は、敗北から学び、最後に勝利することにある。

海上の旋風

水は海へ、砂は海へ。一滴一滴、一粒一粒、地面を転がる風。私は片手で海の雫を、もう一方の手で海景の砂をつかむ。それは私の手の中に没入する広大さだ。手を放し、自分を解放すると、すべてを手の中に収めた感覚が広がる。

しかし、私たちはすべてを持っているわけでも、すべてを達成できるわけでもない。胸に抱いたもの、手にしたものがすべり落ちてしまうこともある。すべてのものには感情があり、それが渦となって現れる。しかし、伝播する。彼は超自然的な経験の未知のヴルトである。その人物はささやいた。"顔のない男を恐れているのか！" "そうだ" 私は少し恐る恐る答えた。"恐れることはない、私は光の前にのみ存在するのだから"私はすでに光とエネルギーについて語ったが、顔も知らず、官能的に現れ、物理的に到達することなく逃げていく男については語ったことがない。その姿は、光なしでは生きられない闇の存在だ。暗闇と静寂の中に身を潜めながら、顔のない黒い帽子をかぶって光の中から姿を現す奇妙な存在、影。私は天へと昇り、あなたの視線と変成作用のある光の偏差で自分自身を拡大する。天の隣で、私は他の誰にも似ていない、スルタンのような、気落ちした雰囲気ですれ、暗い空の速度で反応し、透きとおった切り裂くような雨の最後の一滴まで自分を濃縮する。しかし、顔のない男にとって、水は私の体の上を流れ、私の姿のマッキントッシュは影でできているので濡れない。この想像上の人影は、闇から逃れて光を求める者を追い払うために私が作り出したものだ。私は不幸の友である影なのだ。ヴルトの災いの全ては、それが存在しないこと、消え去った幻影であることだ。

叫び

生涯の喜びの形として、他者を守るという感覚と、魂の恐ろしいハミングが曇った魂から浮かび上がる。上昇する者は常に落下するのではなく、挑戦に立ち上がる。あなたが本当に見ているのは、絶壁からの落下ではなく、上昇なのだ。緑が横たわり、青が薄れる波の高みに、他者の原理を警告する赤が現れる。暗いもの、陰気なもの、軽薄なものは必ずしも存在せず、悲鳴のような静かな叫びの絶望を悪化させる。この言葉の中で、彼は情熱を伴う超自然的な魔法との出会いを指している。キャッチボールなしに、一文字一文字、言葉の文学的壁が築かれ、避けられない事実が浮かび上がる...その中に、文章と断ち切れない満足の涙が流れ込み、その存在は対立することなく、活性化され、南極の氷の裂け目から姿を現す。

君のことを考えたとき、僕は自分が何を失ったのか気づいた。ここにいる私、そこにいるあなた。自分が火山だったらどんなによかっただろう。

私は難しい局面を経験している。静かな忍耐に戻るつもりだ。行っ払いよ、ドアはロックしておくから。あなたが来た理由も知っているが、あなたがどこへ行くかも知っている。奈落の底は広く、あなたと別れる思いはもっと広い。私を置いて逃げ、孤立し、爆発する。

初日から、あなたの言葉は私のフレーズだった。しかし、次にあなたが「こんにちは、私はここにいます」と言うとき、私を当てにしないでほしい。あなたの旅は必ず厳しい現実に戻るだろうが、それに侵されることを望む者にとっては調和のとれたものになるのだから。私たちは何をもち、何を求めているのか？あなたの一言、それは「さようなら」。そして、あなたは去っていった...

最後だった...憧れは終わりを告げる。涙が落ちて、その叫びを消した。私を締め付ける縄は、私を窒息させる縄とは違う。糸でつないだ喉の結び目。それは心を絞めつけ、意識を窒息させる。それがもたらすのは、若返りの緩慢な死である。

私の外で私の中で生きる。運命を消し去り、分数を生きる。この時間を超越した感覚は、次の数瞬間に広がる。席を立たずに空を飛ぶように。決して止まることのないその瞬間は、呼吸をしているからであり、決して止まることができないからこそ、呼吸をすることができるのだ。

生きるということは、息をしたいという衝動と同じくらい強いものだ。しかし、ただ呼吸しているだけでは生きていたとは言えない。生きることをやめたとき、呼吸は止まっていない。私たちに浮かぶのは、無力なイメージだ。

限界も結果もなく、次のステージへ。私たちが動かしているのは、私たちを取り囲み、絶えず私たちの気を散らしているこの自然である。自然は人間の動きのあらゆる瞬間に、無作為かつ相対的に優れた方法ですべてのフレームを映し出すのだから。

私」の姿の周囲に生じるすべてのものは、内部を拡大する外部であるが、気晴らしの感覚だけをとらえることは、私たちが動かすより大きな存在、母なる自然である。

美德と矛盾に満ちた瞬間が侵入し、心の瞬間に同化された場合、これらのインプットはいかなる衝動の学習とアウトプットにもかなわない。

茫漠とした遠い思いから抜け出してくれて嬉しいよ。話したいのは...君が決めるんだ。役割を逆転させることで、あなたは黙れと言う。言葉の飛行は演技だ。あなたを無視して連れ去るように。あなたは風の影の中を飛んでいる。あなたは隠れていて、現れたい時に現れるから。見えないのか？

誰かの世話をすれば、自分の単なる不幸以外の友人ができる。すべてが気化して現れる。そうやって、10まで数えて、未来の窓が開き、広がる最後の煙だけを見ようとする一瞬の眩しさと、未来のクリックがいかに大きく広大になるかを悟った。

氷に閉ざされた北の大地で、投獄され、晒し者にされる
。

巻かれるのを待っている古いシーツ

オレンジ色に焼けた光

忘れ去られた時の暖かい毛布

要求し、許容する魂

電撃寒

ゆるくつながりのない記憶から

虚構的で実存的なサウンドが広がる

リズムの熱が緩む

自己を侵す時

そして、熱のない暑い世界を探検する

冷え込み、大気は

同

球体がコーナーに転がる

海中の傾斜点

地表から内部の灼熱のマグマ、そしてジャングルの探検
と感動まで

印象的なレジヤと他の形態

つまり

それは言葉であり、熱い言葉であり、あるいは

とても冷たく、不吉な死体のようだ

とても寒く、永遠に凍っている

暖かい春の夢と

バレエ

笑いのない川、傷ついた希望

探し待ち

そして、何を欺き、何を仄めかしながら、ゆっくりと創造していくのかを示す。

そして

距離のない想像だけのもの

そして、正しい方程式があれば、全体が

問題化される

熱い、とても熱い、肌が焼けるほど熱い。

サウンド

文化の渴きに振動するギターから

その果実が生まれ、多かれ少なかれ

スマート

滅びることなく、状況を解決する

今、実存的に不動であり、影響を受けている

沈黙の聴覚障害を伝える言葉の病的さ、

最も疑わしいものを警告する

発言されていないことに疑惑の目が向けられている

しかし、効果的に伝達される

意味と書き方。

真実は両者の間に存在しない

思考、行動、そして

自分探し

行動を通して

自己のために人為と策略を生み出す

ドライバーは、その言葉の幻想に身をゆだねている。

無意味だが、その通りだ、

信じられないよ

しかし、それぞれの形式には、その根底にある行為がある。

不幸中の幸いだった。

成長を見て、その状況で何をすべきかを知る

独自の意味を欠く

説明、ビジョン、意味、私たちはよくこう言う。

見ざる言わざる言わざる

他人とサインから学ぶ方法

どうとう

あるいは、足し算の形で

以下にミッションの例を挙げる。

あらゆる抽象的な形態感覚

行動を通して

ドライビング・セルフのために人為的な
策略をめぐらせ、理性で語られる無意味
な言葉の幻想に身をゆだねている、

信じられないよ

しかし、どの形態にも、その根底にある行為
がある。

成長を見て、それ自体に意味がない状況で何
をすべきかを知る。

説明、ビジョン、あるいは意味。私たちはしばしば、考えてもいないことを口にし、その方法を知り、他者から、そして同等あるいは類似の兆候から学ぶことだと気づく。

あるいは、足し算の形で
以下は、ミッションの例である

。

現実的ではない

実際、それは全体主義だった

断片的であると同時に単一的

統一キャラクター

似たような世界で、いつものように

似ているが、似ていない

平等には理由がある

e

ロスト

飄々とした中に、こんなキャラクターがいる。

在り方

そして、そこから来る暖かさを感じる

室内

似たようなものだ。

そのような画家には

建築家の、絶対的な

決定的理由

服従についてはどうだろう。

あるいは虚構の転覆

というシンプルな現実から

自然さ、ウィット、鋭敏さ

未来に背負われた重要性

の現実のように、すべてが純粹なのだ。

苦難の過去

彼は無意識のうちに、そしてかなり大きな力を発揮して
いる。

その獰猛さにおいて、言葉の経験は

常にイメージを思い描く人

寂寥感、ここにあり

注目の的

破片で武装

ここで意識が現在に加わる

書くことの本質が私の中に入り込んでくる、

全能

明確でないこと

地平線のようにまっすぐに

どこ

太陽が沈んで隠れる

眠っている

彼は敗北したと見られていたが、決して悔い改めることはなかった

なぜなら、彼は生まれ変わらなければならなかったからだ。

彼が唯一の存在であったからこそ、太陽は輝き続けた。

経験

明るくエネルギーッシュ

細部に至るまで

偶然の出来事に細心の注意を払って書かれた

それぞれの単語を意味とともに覚える

そして、その忍耐の沈黙の中にあった。

投影された透視ではなく、曖昧な透視である。

理性的でない本能は一切排除されている。

私を侵すものは私ではない

自らを築き、柱を維持する

アキレス腱のように、フィクションの世界ではつねに時
流に乗る

それは、誰の目にも触れることなく、私たちの前に姿を
現す。

気がつく

このスパイたちは、私からの賛辞だ。

悪評

という厳しい現実がある。

機関車のエンジンを暖める

このクレイジーな冒険に乗り出し、そして

トンネルは戻らないかもしれない

出口でその闇の深さを見るために

そのうち

イメージと光り輝く結末が、ただ待っている。

ために

何が私たちを動かし、駆り立てるのか

そして、壊れない力は次のようなものだ。

魅力的

信頼性がなく、知ることが難しく、決して

学ぶ

ウェブは壊れたが、また戻ってきた

ウェブを形成するのに抵抗があった。

ナレーションの中で、偶然、ある映像が流れた。

深さ

若くして彼を殺した

根っからの憎悪

しかし、誰に対しても、その人たちに対しても、決して
無関心ではない。

心も人も、そのような形で

インテリジェントな彼は皆にこう言った。

そしてより多くの人々に来てもらう

オリジナルとは異なり、似ている

実際、どのキャラクターにも操り人形がいる。

演技とそれが象徴する劇、旅

文字の空間に迷い込む

死そのものための空間を創造する芸術

どの時代から見ても、集大成は決してない

結局、私たちのために死ぬことはない

それは私たちを知っている人にしか起こらないし、
いつ起こるかわからない

死してなお知る

とは

それは終わりがなく、シンプルで独創的だった。

キツネのようにちょっと複雑

飽くなき飢えを糧にしたい者

学ぶことに熱心で、常にもっと知りたいと思っている、

そこに長寿の源がある。

そんなことはないが、以前は維持されていた

山師であり、その山の信仰を動かした。

限界は始まりに過ぎない

崖っぷち

姿勢のある若者は、どんなことにも打ち勝つ

高度

そして、降りてきて、自分たちがどれだけ持っている
かを確認する。

既達成

ただ知るという征服の中で、少しは

である以上に

そして決して負けたくなかった。

飛ぶ

決して倒れないところまで

空を飛び、想像することを学ぶからだ

すべてが、すべてが

言葉

断片、アイデア、思考。

深い水

テーマを暗示する欺瞞の芸術

あやふや

海風が現れ、まるで魔法のように

エネルギーと感情の軽さ

しばらくの間、関与して優しい

一瞬の出来事からまた新たな発見

紛れもなく、決して無敵ではない。

勝利は常に彼の敗北であり、まるで

彼はさらに学んだ。

で負けただけだ。

彼は何も言わず、その滑るような風味を感じている。
。

なぜなら、私たちが学ぶのは、彼が勝利を与えた人だけで十分だからだ。

そして生き方を知る

私たちを拒絶するすべてのものと

水没し、沈没し、遠くには空虚な空間が広がっている。

階段

金属製の階段がきしむ

掃除用の布、床に置かれたバケツ、

大理石の正方形が4つ並んだ壁に、雫が落ちている。

深く、わずかに、誰かが歩みを揺らす

弱く、無防備な光は、たった1つの障害物である。

表面

影の効果を持つ一筋の光が反射する

ガラスに映る顔、砕け散るまなざし、

一回のダイブで難破し、浮上した。

窒息から救ってくれるブイ、クレイジー、逃走中、そして

ロスト

星々と深淵の虚無の間で

態度における美德、完全な状態における美德

苦悩と存在の中で、恐れる前に、自分を解放する。

ピアノ

道路を下る途中、舗装路が宙を舞う。

ピアノが床に置かれ、そして弾かれた。

最初の音、最初の映像、最初の音

鰭の虚しさの深い響き

何もない

水中、ついにジャンプ、躍動感あふれる動き

そして、吹くもの、運ばれるもの、すべてが、"あるもの"に向かっている。

薄れつつあった幻影は、一変した。

モーメント

深く、流動的で、塩辛い海では

無色の鉛筆の筆跡、それは

俳優

ショーは祝賀会でクライマックスを迎える。

私を喜ばせるプレゼント、ベッドの上のパジャマ。

ベッド

発泡性

それはイメージだった

景色を見ることなく、すべて一回の吸入で、アルテ

そして、その変換は

クリア、涙なし、ラインなし、ルールなし

何かがないければ、すべては無に帰する、

成長しない

登場せず、ナレーションもほとんどない。

のチェーンと南京錠。

八方

パチンコ、的、そしてあなたは驚く。

届かぬ矢、弓の結び目

こぼれて失禁した筆跡。

滲んだ文字、決して消えない文字、そのすべて

指名手配

そして、心の奥底では、いつもそれを望んでいた。

のように鋭く、刃のような存在にすぎないだろう。

荒い髭、一本の口髭、一本の髪の毛、一本の睫毛。

もう一つ

すべての顔から、すべてのタッチから、すべての不遜さ
から

彼の罪は、その時空を超えたものである。

現在、合計でわずか1枚の布

あなたのバケツの中、大海の一滴、結ばれた糸"

そして、蹂躪され引き裂かれた文章、抜粋

紙のテキストのみ

一瞬の輝かしい夜

輝く暖かい太陽、光り輝くタイル

そして、その鏡は、わずかなことの後に、違うものを見るための鏡となる。

イリュージョン、地面に落ちた雫

そして、すべてが「ノー」であった。

布が柔らかくなる優しさを読む

ダイブから広がる理性

そして、明るさ、激しさ、すべてが疑問視されている。

その感触から、次のことは明らかだ。

レイプされ、鎖につながれた後、彼は自由になった。

どんな恣意性も、合図も...

カーテンを閉めた開けっ放しの窓

自分のステージから劇場を眺める

サーフボード、救命胴衣、これだ

しかし、砂の上に横たわったとき、私はこう思った。

陸に上がり、飛び込む瞬間を体験した、

驕り高ぶる

光り輝き、私たちは世界の底へと降りていく、

シンプルな歌が、次のように変貌する。

満足度

突然の一撃、幻影、私たちは皆生きている

とりわけ予感の現実

何かが起こり、実現する

解放され、目覚めた者の痙攣

感じる存在と手紙のために

決して完璧ではないソネットより

途切れ途切れの韻から、ひとつの文章が流れてきた。

そこからどこへ行くのか？

その場を離れず、どこにいたのか

失踪ラインに入ることなく

ミステリアス

地上の埃が点に

すべての幻想の中の真実

イマジネーション

そして彗星は爆発し、この惑星では

人生はいつも冗談ばかりではない。

基礎

陰謀は準備され、計画は失敗しなかった

そして、私は吸い込まれるような声を聞き、手紙の遠吠えを聞いた。

歴史の狼は、完璧から破滅まで

が含まれていた。

海辺の星空に浮かぶロケット

だから、すでに言われていることは奇妙なことだ。

そして、私は階段を下り、虚空へと向かう

一段降りると金属製の手すり

は自動で、片足しか川に入っていなかった、
裸足で寒そうにしているのは、そう見えないからだ
。

é

すべてが消え去り、消えていく。宇宙全体が

舌が、口の中にある。

あなたとのキスの渴いた快感に心を開く

キスと欲望、あなたの視線からの一口。

ボートの停泊中

そして、何かに対する真のビジョン。

非現実的というより、むしろ想像である。

飛んで征服する暖かさの感覚

冥王星よ、心を込めて

水たまりの中の石

別の人生

いつも撮られるわけではないポートレート

狂気は精神的な正気をもたらす

すべてが創造され、キスから始まる。

力強く、捕まるのを待っている

存在するだけで、信念を持って、常に

という願望が、彼の心につながっていた。

ポンプと

電流は流れから想像される

箱には4つの壁があった

そして、理屈抜きにフィラメントからの視線が待っている。

恐れない強さを照らすために、

勝つか負けるかではなく、それは"意志"なのだ。

曖昧で漠然としている

海

筆でアルファベットを描く

それぞれの色、その音節と強さで、頂点に達する

行きたくて行きたくて

そして、自分自身を解放すること。

城

滝と川の下の岩の上

チェーン内のすべてのものを前進させる。

とはまったく異なるものを考えていた。

同じように、旅の簡単な説明、音

の妙技

見えないけれど広がっているもの

そして、もう一段登った。

ドアには出口があった。

想像され、想像されなかったすべてのもの

という願望であった。

ハートを結ぶ

あなたのそばで、すべてが脈打つ

そして、乱流の方が感度が低い

そして行為中

原爆投下はすでに出来事だった

戦争から平和へ

すべてがさまざまな意味を持って結びついている

戻ってきたものへの出発と拡大

そして、歌う鳥と

彼女が歌を覚えたのは今日だけだ。

カードはすべて座標なしで並べられている

もたらすことであり、結局のところ、信じてはいけない
という恐れと

ついに戻らない

あなたがくれた文章を言い換えると、こうなる：

"全ルートはすでに走行済み

ルーフの落下深度、ややオープン

窓と寒さ、演技の暗闇の中で

実際、そのようなことはなかったが、報道された。

考えるために発明されたと思われる

この緊急事態は、憂さ晴らしのためだった

あの水は、あなたのキスのための渴きだった

ただあなたとピアノに触れたいという欲望の中で

という音符を弾く計画の一部だった。

征する

鋭い感覚、鈍い刃

すでにあるものに影響を与えない、力強い文章だった

フェルト

星なき夜のロープ

未来への旅

そうはならない。現在と過去は違うのだから

それがクーデターだった。

それは巨大で途方もないものだった

海の怒り

何が指示されているか

秘密の旅のために

レセプションなし

それは正方形の球体だった

逆三角形

ピラミッドのように

石棺から

心と魂の

不可解...

忘れられた人のように

生きること、ハプニング

現地にあった葉の画像

それは巨大で途方もないものだった

海の怒り

用途

秘密の旅へ

レセプションなし

それは正方形の球体だった

逆三角形

ピラミッドのように

石棺から

心と魂の

不可解...

忘れられた人のように

生きること、ハプニング
潤れることのない灌漑

のペンと筆のために

私たちの惑星

各エアリアル、衛星

あるいはシンプルに

接触し続けるワイヤー

もうひとつは

惑星を旅する

木々のように

枝が伸びる場所

そして花

庭師より

一日中輝いている

月明かりに照らされた輝きのようだ。

そうなるはずだった

そして

またジャンプ、またジャンプ

生まれてくる子供を見て、そして何よりも

彼が成長し、学び、理解するのを見るために

彼が観察し、変化させるものすべて

子供の言葉を借りれば、次のような行為である。

柔肌が頂点に君臨する

子供たちの関係

両親へ、そして指導のために

学習の二重の共犯関係

観察と学習

双子のように

学習が行われるペアを持つ人

お互い様だ

私のものであり、あなたのものでもある

私はあなたに挑戦する

私たちは常に成長し、学ぶ

それを知るには...

そして長生きするために...

生きるために

痛みを感じる

それが私の視界を妨げる

本物になりたい

常に忠実な態度で

しかし、悲しいピエロのように

私は偽物だ

笑顔、内側から湧き出る喜び

外に従わない

自分が浮いているように感じる

その場所を離れることになる

普通なら、旅に出るだろう

そして、自分自身と距離を置く

個人的な観点から

ストライドを感じる

忌まわしい不自然な現象

しかし、野生動物と同じように

獰猛さと

迅速なロード

絞殺

そして、次のように殺す。

もし生来の力があれば

彼はそれを予言した

現時点での失敗

事前と旅行中に

画像の痕跡はない

反逆者と憎悪者

そして本当に罪深い

投票はこちら

空の温度

高さからは新鮮さが生まれる

陽気で穏やか

マルガリーダ

止まれ、咲け

そして、この衝動は大きくなる。

暴力的では済まない

悪い瞬間

すべての獰猛さ

洗練された

突然

問題なし

あるいはほとんどない

不便さと

純粋な衝動で

騒ぐように言う

空中から、そしてあなたを

考えてみて。

恐れずに、決して

生きないことを学ぶ

トラップで

あなたが抱いている憎しみ

あなたのものではない、あなたの中にある

人間

善行が何をもたらすか見てみよう

地上の星

幕が下りるとき

ピアノを弾く

私には計画がある

行こう

私たちは

到着した瞬間から

決して手放さない

到達を阻まれる

そして飛ぶ

グライド&フライ

荒れ狂う雲

それは条件だ

私たちを変える多要素

引き裂くような雨の中で

彼の顔は柔らかく湿っている

断片

土地

落ち着いた読書

あなたの推測のようだが

建築

エンジニアリングなし

その力において、彼は次のように言及している。

ファンタスティックに、実現不可能に

現実的だ。

我々は皆、力を持っている

何よりも大切にしていること

ガラスだらけだった

暗いが陰影がある

スモーク

絶対に透明

値は次のようになる。

必要な花

常に水を与える

種とは何か

心の成長

同じではないこと

私たち全員が持っているもの

本能と獐猛さ

人間の魂そのもの

正しい薬の先にあるもの

マジックは

険しいトンネル

入口に明かりが見える

その目的は

の脱線事故

底なし沼

我々が持っているものすべて

純粋な博学

そして実行された

見よ、誰も

彼らは勝つだろう

世界

トンネルは通路

エントランスの光の中で生きる

そして道を照らす

私たちが持っているもの

それが生命線であり、走らなければならない

深い愛

苦悩の愛

彼はまた、こうも感じていた。

忘れられた

ちょっと迷子

悼み、そして生きた

マスク

結論

すべてを終わらせる方法

ようやく、これだ、

これほど確かなものはない。

不確かなことは何もない

挿入

別のライン

小さな連続限界

これではわからない。

無限の、それゆえに線のような

私たちには2つのポイントがある。

誕生とただ限りなくただ死に直面する"

スローアプローチ

呼吸のように

感じた、終わった

他の人を見たことがないのだから

端以外の顔

不吉なマスク ゆっくり接近

呼吸のように

感じた、終わった

他の人を見たことがないのだから

端以外の顔

不吉な仮面

あなたがくれた文章を言い換えると、こうなる：

「メモリー

あなたのために私は苦しんだ

私はあなたに同情した

愛していた

私はあなたと暮らした

愛したことはない

キスしたもう一人

あなたの中に私は見た

私はあなたに入った

いつまでも忘れない愛

と感じた。

これほどの苦しみはない

これ以上何も望まない

あなたのために死ぬ

私を通して

私はあなたにこう書いた。

たくさん

苦しんでも死ななかった

あなたのために、私は決して失わない

私はただ、こう思った。

恋人

ある時

瞬間

彼は遠くにいるようだった

一日だけ

愛から遠く離れて

誰かから

恋人

快晴の夜

暗い夜に

として明確である。

夜明け

魅惑の歌

本物のようになる

飛ぶ鳥の口笛と

誰もが自由を熱望する

執筆

I...

そして最大の財産

私が持てるもの

新聞と

魅力的なペン

何よりも、私はこうありたいと思う。

考えるだけでいい

通過

私は死んだ！

そう、それは終わりの始まりだった

ターニングポイントの始まり

苦味はないが、優しさもない

それは旅だった

イメージも勇気もなく作られた

最小と最大のコントラスト

出発の時だった

あるいは、この場所に留まり、想像する。

何でもあり、何でもないこともある

彼は降りようとした

極端なことを言えば

私は恐れないし、震えない

旅には帰りがある

この没入した世界で

美の深みで

私にはすべてがある

そして何もかも、何も望まない。

私は何も受け入れない、そう思っていた。

旅には帰りがある

この没入した世界で

美の深みで

私にはすべてがある

そして何もかも、何も望まない。

私は何も受け入れない、そう思っていた。

深淵

崖の上にいる

奈落の底

終わりだ

保留中

そして私はそうやって歩いた。

ジャンプ、跳躍

そして喫煙

目的地に着くことなく歩いていた

不安は年齢によって異なるが

私たちはいつも極度の不安の中で生きている。

何かを待っているとき、私たちはいつもそれを求める

私たちの中の何かが、すべてが介入している

不随意意志のように

待機中

そして私はこうして歩いた。

ジャンプ、跳躍

そして喫煙

目的地に着くことなく歩いていた

不安は年齢によって異なるが

私たちはいつも極度の不安の中で生きている。

何かを待っているとき、私たちはいつもそれを求める

私たちの中の何かが、すべてが介入している

まるで無意識の意志のように

私は座った、

私は考え込んだ、

しかし、結果はそうではない。

予想に近いものだった、

私はエレベーターで階下に降りた。

光と闇と窮屈さ

どのような操縦をするか

あなた自身の意志

そこで彼は立ち上がり、ゆっくりと

彼は一度も倒れることなく沈んでいった

本社

涙のために、

直感

あるいは破壊。

思考は美しい

食堂で一口

冷蔵庫から

そして、私はそれを本部のある場所に持っていく。

そして、すべてが幸せで

壮大

存在

最後までやる気はない、

終わり...そういうものだ

それは...

その先の言葉が聞こえる

私はそれを恐ろしいものとして見た

優勝

もうひとつ

私にはない時間

行きたいという願望

だから私は存在し、あり続ける

以下

日

何が起こったのか

夜明けを感じた

柔らかな悲しみ

それは日暮れとともにやってきた

私は生き、蘇り、生まれ変わった

私は彼、力ある者

ルネッサンス

煙幕の中

ここで彼は生まれる

イベントの羊皮紙なし

一瞬だった

そして、スラブは離れていく。

別の人生を生きるために

画像の場合

簡単なことだ。

あなたのイメージで、生まれ変わる

見る

香水、匂い

狂気、狂気

思考の拷問

すべてオフ

身寄りのない孤児は

心臓の痛み

多くの人の孤独な愛

他人を傷つける

見た目と死

欲望と憧れ

終了

もうちょっとだけ、

そこから生まれる瞬間

あなたの考えは、おそらく

私たちは皆、ただ存在するだけではない。

高潔なイメージのように

しかし、外見や状態によって

心は死なない

その瞬間

物理的存在

そして突然、すべてが

消えることもあれば、頂点に達することもある。

生きること死ぬこと

生きるか死ぬか？

あ、すみません、それは質問ですか？

明らかに、自殺したことの無い人なんていないでしょう？

私たちは皆、生きることをやめてしまった

ある時点で誰もが例外なく

病的な喜びのように、私たちは考える。

私たちは死ぬ。

私たちは生きていく、そういうものだ

滑稽さの矛盾

出発

親愛なる友よ...私は遠くから書いている...あなたは持っていた

左...親愛なる友よ...

今夜、私の魂は...あなたのために苦しむ！

心からお詫び申し上げます。どうかお許しください

私、私の友人...

私の自由は空に消えた

あなたは連れて行かれた...

帰ってくるのが楽しみだ...とても平和だ...

静寂、亡き人への道...

許された...最後の言葉...

中断

もし私の魂が私の中で蒸発してしまったら、

瓦礫しか残らない

ファンタジーとは程遠い秘密

新たな転覆から

怠惰...もうひとつのプライベートな時間...

であること

音、口の芯、

ソフトなタッチ、色

魅惑するひとつの夢

ユニークな瞬間

自暴自棄になり、洞察力に触発される、

距離も制限もない

窒息カットは想像を超える

この絵の中で、私は血と痛みを表現している。

意味によって赤く炎症を起こした、

なぞなぞではなく

現実、ビジョン。

私たちが互いに合流し、そして見るとき

一目でわかる信じ方

存在の承認と奨励、

混入され、反転され、鏡に映し出される。

私が感じるすべての悲しみの中で

怖がらずに、私は誰かのものでなければならない。

同情、狂気、情熱、そして純粹

鎖のない結び目の魂

絡み合い、一体となる。

ひとつの方向、ひとつの欲望

そして最終的には

何でもない

欠席

もし私があなただの世界に触れ、見ることができたなら、

私は不純になる。

少なくとも、私は自分の感性を変える

信じる

私の現実を超えている。

私の単純な悲しみ

すべての幸福と同じ

達成可能なものも不可能なものもある。

皮肉もなく、魔法のように

もしいつか、私に触ってと言ったら

あなたが私を見て、次のように感じる。

私は誰なのか、そして何なのか

私はあなたとともにいる。

火のついたマッチが燃える

私を包む痛み

すべてが燃えるとき

私は決して君を連れ去ったりはしなかった。

あなたが苦しんでいるのは

私はあなたのそばを離れなかった。

あなたを愛し、これからも愛し続ける

愛しているよ。

氷に閉ざされた北の大地で、監禁され、さらされている
。

巻かれるのを待っている古いシート

オレンジ色に焼けた光

忘れ去られた時の暖かい毛布

要求し、許容する魂

電撃寒

ゆるくつながりのない記憶から

虚構的で実存的なサウンドが広がる

リズムの熱が緩む

自己を侵す時

そして、熱のない暑い世界を探検する

冷え込み、大気は

同

球体がコーナーに転がる

海中の傾斜点

地表から内部の灼熱のマグマ、そしてジャングルの探検
と感動まで

印象的なレジヤと他の形態

つまり

それは言葉であり、熱い言葉であり、あるいは

とても冷たく、不吉な死体のようだ

とても寒く、永遠に凍っている

暖かい春の夢と

バレエ

笑いのない川、傷ついた希望

探し待ち

そして、何を欺き、何を仄めかしながら、ゆっくりと創造していくのかを示す。

そして

距離のない想像だけのもの

そして、正しい方程式があれば、全体が

問題化される

熱い、とても熱い、肌が焼けるほど熱い。

サウンド

文化の渴きに振動するギターから

その果実が生まれ、多かれ少なかれ

スマート

滅びることなく、状況を解決する

今、実存的に不動であり、影響を受けている

沈黙の聴覚障害を伝える言葉の病的さ、

最も疑わしいものを警告する

発言されていないことに疑惑の目が向けられている

しかし、効果的に伝達される

意味と書き方。

真実は両者の間に存在しない

思考、行動、そして

自分探し

行動を通して

自己のために人為的な策略をめぐらす。

ドライバーは、その言葉の幻想に身をゆだねている。

無意味だが、その通りだ、

信じられないよ

しかし、それぞれの形式には、その根底にある行為がある。

不幸中の幸いだった。

成長を見て、その状況で何をすべきかを知る

独自の意味を欠く

説明、ビジョン、意味、私たちはよくこう言う。

見ざる言わざる言わざる

他人とサインから学ぶ方法

どうとう

あるいは、足し算の形で

以下にミッションの例を挙げる。

あらゆる抽象的な形態感覚

行動を通して

ドライビング・セルフのために人為的な
策略をめぐらせ、理性で語られる無意味
な言葉の幻想に身をゆだねている、

信じられないよ

しかし、どの形態にも、その根底にある行為
がある。

成長を見て、それ自体に意味がない状況で何
をすべきかを知る。

説明、ビジョン、あるいは意味、私たちはしばしば思ってもいないことを口にし、その方法を知り、他者から、そして同等あるいは類似の兆候から学ぶことだと気づく。

あるいは、足し算の形で
以下は、ミッションの例である

。

現実的ではない

実際、それは全体主義だった

断片的であると同時に単一的

統一キャラクター

似たような世界で、いつものように

似ているが、似ていない

平等には理由がある

e

ロスト

飄々とした中に、こんなキャラクターがいる。

在り方

そして、そこから来る暖かさを感じる

室内

似たようなものだ。

そのような画家には、このような

建築家の、絶対的な

決定的理由

服従についてはどうだろう。

あるいは虚構の転覆

というシンプルな現実から

自然さ、ウィット、鋭敏さ

未来に背負われた重要性

の現実のように、すべてが純粹なのだ。

苦難の過去

彼は無意識のうちに、そしてかなり大きな力を発揮して
いる。

その獰猛さにおいて、言葉の経験は

常にイメージを思い描く人

寂寥感、ここにあり

注目の的

破片で武装

ここで意識が現在に加わる

書くことの本質が私の中に入り込んでくる、

全能

明確でないこと

地平線のようにまっすぐに

どこ

太陽が沈んで隠れる

眠っている

彼は敗北したとみなされたが、決して悔い改めることは
なかった

なぜなら、彼は生まれ変わらなければならなかったから
だ。

彼が唯一の存在であったからこそ、太陽は輝き続けた。

経験

明るくエネルギーッシュ

細部に至るまで

偶然の出来事に細心の注意を払って書かれた

それぞれの単語を意味とともに覚える

そして、その忍耐の沈黙の中にあった。

投影された透視ではなく、曖昧な透視である。

理性的でない本能は一切排除されている。

私を侵すものは私ではない

自らを築き、柱を維持する

アキレス腱のように、フィクションの世界ではつねに時
流に乗る

それは、誰の目にも触れることなく、私たちの前に姿を
現す。

気がつく

このスパイたちは、私からの賛辞だ。

悪評

という厳しい現実がある。

機関車のエンジンを暖める

このクレイジーな冒険に乗り出し、そして

トンネルを抜けると、もう戻れないかもしれない。

出口でその闇の深さを見るために

そのうち

イメージと光り輝く結末が、ただ待っている。

ために

何が私たちを動かし、駆り立てるのか

そして、壊れない力は次のようなものだ。

魅力的

信頼性に欠け、知ることが難しく、決して知ることができない。

学ぶ

ウェブは壊れたが、戻ってきた

ウェブを形成するのに抵抗があった。

ナレーションの中で、偶然、ある映像が流れた。

深さ

若くして彼を殺した

根っからの憎悪

しかし、誰に対しても、その人たちに対しても、決して無関心ではない。

心も人も、そのような形で

インテリジェントな彼は皆にこう言った。

そしてより多くの人々に来てもらう

オリジナルとは異なり、似ている

実際、どのキャラクターにも操り人形がいる。

演技とそれが象徴する劇、旅

文字の空間に迷い込む

死そのものための空間を創造する芸術

どの時代においても、その集大成はこれまでなかった。

結局、私たちのために死ぬことはない

それは私たちを知っている人にしか起こらないし、
いつ起こるかわからない

死してなお知る

とは

終わりはなく、シンプルで独創的だった。

キツネのようにちょっと複雑

飽くなき飢えを糧にしたい者

学ぶことに熱心で、常にもっと知りたいと思っている、

長寿の源はそこにある。

そんなことはないが、以前は維持されていた

山師であり、その山の信仰を動かした。

限界は始まりに過ぎない

崖っぷち

姿勢のある若者は、どんなことにも打ち勝つ

高度

そして、降りてきて、自分たちがどれだけ持っているかを確認する。

既達成

ただ知るという征服の中で、少しは

である以上に

そして決して負けたくなかった。

飛ぶ

決して倒れないところまで

飛ぶことを学び、想像することを学ぶからだ

すべてが、すべてが

言葉

断片、アイデア、思考。

深い水

テーマを暗示する欺瞞の芸術

あやふや

海風が現れ、まるで魔法のように

エネルギーと感情の軽さ

しばらくの間、関与して優しい

一瞬の出来事からまた新たな発見

紛れもなく、決して無敵ではない。

勝利は常に彼の敗北であり、まるで

彼はさらに学んだ。

で負けただけだ。

彼は何も言わず、その滑るような風味を感じている。
。

なぜなら、私たちが学ぶのは、彼が勝利を与えた人だけで十分だからだ。

そして生き方を知る

私たちを拒絶するすべてのものと

水没し、沈没し、遠くには空虚な空間が広がっている。

階段

金属製の階段がきしむ

掃除用の布、床に置かれたバケツ、

大理石の正方形が4つ並んだ壁に、雫が落ちている。

深く、わずかに、誰かが歩みを揺らす

弱く、無防備な光。

表面

影の効果を持つ一筋の光が反射する

ガラスに映る顔、砕け散るまなざし、

一回のダイブで難破し、浮上した。

窒息から救ってくれるブイ、クレイジー、逃走中、そして

ロスト

星々と深淵の虚無の間で

態度における美德、完全な状態における美德

苦悩と存在の中で、恐れる前に、自分を解放する。

ピアノ

道路を下る途中、舗装路が宙を舞う。

ピアノが床に置かれ、そして弾かれた。

最初の音、最初の映像、最初の音

鰭の虚しさの深い響き

何もない

水中、ついにジャンプ、躍動感あふれる動き

そして、吹くもの、運ばれるもの、すべてが、"あるもの"に向かっている。

薄れつつあった幻影は、一変した。

モーメント

深く、流動的で、塩辛い海では

無色の鉛筆の筆跡、それは

俳優

ショーは祝賀会でクライマックスを迎える。

私を喜ばせるプレゼント、ベッドの上のパジャマ。

ベッド

発泡性

それはイメージだった

景色を見ることなく、すべて一回の吸入で、アルテ

そして、その変換は

クリア、涙なし、ラインなし、ルールなし

何かがないければ、すべては無に帰する、

成長しない

登場せず、ナレーションもほとんどない。

のチェーンと南京錠。

八方

パチンコ、的、そしてあなたは驚く。

届かぬ矢、弓の結び目

こぼれて失禁した筆跡。

滲んだ文字、決して消えない文字、そのすべて

指名手配

そして、心の奥底では、いつもそれを望んでいた。

のように鋭く、刃のような存在にすぎないだろう。

無骨なあごひげ、一本の口ひげ、一本の毛、一本の
髪

もう一つ

すべての顔から、すべてのタッチから、すべての不遜さ
から

彼の罪は、その時空を超えたものである。

現在、合計でわずか1枚の布

あなたのバケツの中、大海の一滴、結び目の糸"

そして、蹂躪され引き裂かれた文章、抜粋

紙のテキストのみ

一瞬の輝かしい夜

輝く暖かい太陽、光り輝くタイル

そして、その鏡は、わずかなことの後に、違うものを見るための鏡となる。

イリュージョン、地面に落ちた雫

そして、すべてが「ノー」であった。

布が柔らかくなる優しさを読む

ダイブから広がる理性

そして、輝き、激しさ、すべてに疑問が投げかけられる
。

その感触から、次のことは明らかだ。

レイプされ、鎖につながれた後、彼は自由になった。

どんな恣意性も、合図も...

カーテンを閉めた開けっ放しの窓

自分のステージから劇場を眺める

サーフボード、救命胴衣、これだ

しかし、砂の上に横たわったとき、私はこう思った。

陸に上がり、飛び込む瞬間を体験した、

驕り高ぶる

光り輝き、私たちは世界の底へと降りていく、

シンプルな歌が、次のように変貌する。

満足度

突然の一撃、幻影、私たちは皆生きている

とりわけ予感の現実

何かが起こり、実現する

解放され、目覚めた者の痙攣

感じる存在と手紙のために

決して完璧ではないソネットより

途切れ途切れの韻から、ひとつの文章が流れてきた。

そこからどこへ行くのか？

その場を離れず、どこにいたのか

失踪ラインに入ることなく

ミステリアス

地上の埃が点に

すべての幻想の中の真実

イマジネーション

そして彗星は爆発し、この惑星では

生きるということは、常に冗談ではないのだ。

基礎

陰謀は準備され、計画は失敗しなかった

そして、私は吸い込まれるような声を聞き、手紙の遠吠えを聞いた。

歴史の狼は、完璧から破滅まで

が含まれていた。

海辺の星空に浮かぶロケット

だから、すでに言われていることは奇妙なことだ。

そして、私は階段を下り、虚空へと向かう

一段降りると金属製の手すり

は自動で、片足しか川に入っていなかった、
裸足で寒そうにしているのは、そう見えないからだ
。

é

すべてが消え去り、消えていく。宇宙全体が

そうであるならば、舌だけが、口の中で

あなたとのキスの渴いた快感に心を開く

キスと欲望、あなたの視線からの一口。

ボートの停泊中

そして、何かに対する真のビジョン。

非現実的というより、むしろ想像である。

飛んで征服する暖かさの感覚

冥王星よ、心を込めて

水たまりの中の石

別の人生

いつも撮られるわけではないポートレート

狂気は精神的な正気をもたらす

すべてが創造され、キスから始まる。

力強く、捕まるのを待っている

存在するだけで、信念を持って、常に

という思いが、彼の心につながっていた。

ポンプと

流れから想像できること

箱には4つの壁があった

そして、理屈抜きにフィラメントからの視線が待っている。

恐れない強さを照らすために、

勝つか負けるかではなく、それは"意志"なのだ。

曖昧で漠然としている

海

筆でアルファベット全体を描く

それぞれの色、その音節と強さで、頂点に達する

行きたくて行きたくて

そして、自分自身を解き放つこと、そして何よりも築くこと。

城

滝と川の下の上

チェーン内のすべてのものを前進させる。

とはまったく異なるものを考えていた。

同じように、旅の簡単な説明、音

の妙技

見えないけれど広がっているもの

そして、もう一段登った。

ドアには出口があった。

想像され、想像されなかったすべてのもの

搾取されたのは

ハートを結ぶ

あなたのそばで、すべてが脈打つ

そして、乱流の方が感度が低い

そして行為中

原爆投下はすでに出来事だった

戦争から平和へ

すべてがさまざまな意味を持って結びついている

戻ってきたものへの出発と拡大

そして、歌う鳥と

彼女が歌を覚えたのは今日のことだ。

カードはすべて座標なしで並べられている

もたらずことであり、結局のところ、信じられないとい
う恐怖と

ついに戻らない

あなたがくれた文章を言い換えると、こうなる：

「すべての旅はすでに終わっている

ルーフの落下深度、ややオープン

窓と寒さ、演技の暗闇の中で

実際にはそんなことはなかったのだが、報道され

考えるために発明されたと思われる

この緊急事態は、憂さ晴らしのためだった

あの水は、あなたのキスのための渴きだった

ただあなたとピアノに触れたいという欲望の中で

という音符を弾く計画の一部だった。

征する

鋭い感覚、鈍い刃

すでにあるものに影響を与えない、力強い文章だった

フェルト

星なき夜のロープ

未来への旅

そうはならない。現在と過去は違うのだから

それがクーデターだった。

それは巨大で途方もないものだった

海の怒り

何が指示されているか

秘密の旅のために

レセプションなし

それは正方形の球体だった

逆三角形

ピラミッドのように

石棺から

心と魂の

不可解...

忘れられた人のように

生きること、ハプニング

現地にあった葉の画像

それは巨大で途方もないものだった

海の怒り

用途

秘密の旅へ

レセプションなし

それは正方形の球体だった

逆三角形

ピラミッドのように

石棺から

心と魂の

不可解...

忘れられた人のように

生きること、ハプニング
潤れることのない灌漑

のペンと筆のために

私たちの惑星

各エアリアル、衛星

あるいはシンプルに

接触し続けるワイヤー

もうひとつは

惑星を旅する

木々のように

枝が伸びる場所

そして花

庭師より

一日中輝いている

月明かりに照らされた輝きのようだ。

そうなるはずだった

そして

またジャンプ、またジャンプ

生まれてくる子供を見て、そして何よりも

彼が成長し、学び、理解するのを見るために

彼が観察し、変化させたものすべて

子供の言葉を借りれば、次のような行為である。

柔肌が頂点に君臨する

子供たちの関係

両親へ、そして指導のために

学習の二重の共犯関係

観察と学習

双子のように

学習が行われるペアを持つ人

お互い様だ

私のものであり、あなたのものでもある

私はあなたに挑戦する

私たちは常に成長し、学ぶ

それを知るには...

そして長生きするために...

生きるために

痛みを感じる

それが私の視界を妨げる

本物になりたい

常に忠実な態度で

しかし、悲しいピエロのように

私は偽物だ

笑顔、内側から湧き出る喜び

外に従わない

自分が浮いているように感じる

その場を離れることになる

普通なら、旅に出るだろう

そして、自分自身と距離を置く

個人的な観点から

ストライドを感じる

忌まわしい不自然な現象

しかし、野生動物と同じように

獰猛さと

迅速なロード

絞殺

そして、次のように殺す。

もし生来の力があれば

彼はそれを予言した

現時点での失敗

事前と旅行中に

画像の痕跡なし

反逆者と憎悪者

そして本当に罪深い

投票はこちら

空の温度

高さからは新鮮さが生まれる

陽気で穏やか

マルガリーダ

止まれ、咲け

そして、この衝動は大きくなる。

暴力的では済まない

悪い瞬間

すべての獰猛さ

洗練された

突然

問題なし

あるいはほとんどない

不便さと

純粋な衝動で

騒ぐように言う

空中から、そしてあなたを

考えてみて。

恐れずに、決して

生きないことを学ぶ

トラップで

あなたが抱いている憎しみ

あなたのものではない、あなたの中にある

人間

善行が何をもたらすか見てみよう

地上の星

幕が下りるとき

ピアノを弾く

私には計画がある

行こう

私たちは

到着した瞬間から

決して手放さない

到達を阻まれる

そして飛ぶ

グライド&フライ

荒れ狂う雲

それは条件だ

私たちを変える多要素

引き裂くような雨の中で

彼の顔は柔らかく湿っている

断片

土地

落ち着いた読書

あなたの推測のようだが

建築

エンジニアリングなし

その力において、彼は次のように言及している。

ファンタスティックに、実現不可能に

現実的だ。

我々は皆、力を持っている

何よりも大切にしていること

ガラスだらけだった

暗いが陰影がある

スモーク

絶対的に透明

値は次のようになる。

必要な花

常に水を与える

種とは何か

心の成長

同じではないこと

私たち全員が持っているもの

本能と獐猛さ

人間の魂そのもの

正しい薬の先にあるもの

マジックは

険しいトンネル

入口に明かりが見える

その目的は

の脱線事故

底なし沼

私たちが持っているものすべて

純粋な博学

そして実行された

見よ、誰も

彼らは勝つだろう

世界

トンネルは通路

エントランスの光の中で生きる

そして道を照らす

私たちが持っているもの

それが生命線であり、走らなければならない

深い愛

苦悩の愛

彼はまた、こうも感じていた。

忘れられた

ちょっと迷子

悼み、そして生きた

マスク

結論

すべてを終わらせる方法

ようやく、これだ、

これほど確かなものはない。

不確かなことは何もない

挿入

別のライン

小さな連続限界

これではわからない。

無限の、それゆえに線のような

私たちには2つのポイントがある。

誕生とただ限りなくただ死に直面する"

スローアプローチ

呼吸のように

感じた、終わった

他の人を見たことがないのだから

端以外の顔

不吉なマスク ゆっくり接近

呼吸のように

感じた、終わった

他の人を見たことがないのだから

端以外の顔

不吉な仮面

あなたがくれた文章を言い換えると、こうなる：

「メモリー

あなたのために私は苦しんだ

私はあなたに同情した

愛していた

私はあなたと暮らした

愛したことはない

キスしたもう一人

あなたの中に私は見た

私はあなたに入った

いつまでも忘れない愛

と感じた。

これほどの苦しみはない

これ以上何も望まない

あなたのために死ぬ

私を通して

私はあなたにこう書いた。

たくさん

苦しんでも死ななかった

あなたのために、私は決して失わない

私はただ、こう思った。

恋人

ある時

瞬間

彼はよそよそしかった

一日だけ

愛から遠く離れて

誰かから

恋人

快晴の夜

暗い夜に

として明確である。

夜明け

魅惑の歌

本物のようになる

飛ぶ鳥の口笛と

誰もが自由を熱望する

執筆

I...

そして最大の財産

私が持てるもの

新聞と

魅力的なペン

何よりも、私はこう願っている。

考えるだけでいい

通過

私は死んだ！

そう、それは終わりの始まりだった

ターニングポイントの始まり

苦味はないが、優しさもない

それは旅だった

イメージも勇気もなく作られた

最小と最大のコントラスト

出発の時だった

あるいは、この場所に留まり、想像する

何でもあり、何でもないこともある

彼は降りようとした

極端なことを言えば

私は恐れないし、震えない

旅には帰りがある

この没入した世界で

美の深みで

私にはすべてがある

そして何もかも、何も望まない。

私は何も受け入れない、そう思っていた。

旅には帰りがある

この没入した世界で

美の深みで

私にはすべてがある

そして何もかも、何も望まない。

私は何も受け入れない、そう思っていた。

深淵

崖の上にいる

奈落の底

終わりだ

保留中

そして私はこうして歩いた。

ジャンプ、跳躍

そして喫煙

目的地に着くことなく歩いていた

不安は年齢によって異なるが

私たちはいつも極度の不安の中で生きている。

何かを待っているとき、私たちはいつもそれを求める

私たちの中の何かが、すべてが介入している

不随意意志のように

待機中

そして私はこうして歩いた。

ジャンプ、跳躍

そして喫煙

目的地に着くことなく歩いていた

不安は年齢によって異なるが

私たちはいつも極度の不安の中で生きている。

何かを待っているとき、私たちはいつもそれを求める

私たちの中の何かが、すべてが介入している

まるで無意識の意志のように

私は座った、

私は考え込んだ、

しかし、結果はそうではない。

予想に近いものだった、

私はエレベーターで階下に降りた。

光と闇と窮屈さ

どのような操縦をするか

あなた自身の意志

そこで彼は立ち上がり、ゆっくりと

彼は一度も倒れることなく沈んでいった

本社

涙のために、

直感

あるいは破壊。

思考は美しい

食堂で一口

冷蔵庫から

そして、私はそれを本部のある場所に持っていく。

そして、すべてが幸せで

壮大

存在

最後までやる気はない、

終わり...そういうものだ

それは...

その先の言葉が聞こえる

私はそれを恐ろしいものとして見た

優勝

もうひとつ

私にはない時間

行きたいという願望

だから私は存在し、あり続ける

以下

日

何が起こったのか

夜明けを感じた

柔らかな悲しみ

それは日暮れとともにやってきた

私は生き、蘇り、生まれ変わった

私は彼、力ある者

ルネッサンス

煙幕の中

ここで彼は生まれる

イベントの羊皮紙なし

一瞬だった

そして、スラブは離れていく。

別の人生を生きるために

画像の場合

簡単なことだ。

あなたのイメージで、生まれ変わる

見る

香水、匂い

狂気、狂気

思考の拷問

すべてオフ

身寄りのない孤児は

心臓の痛み

多くの人の孤独な愛

他人を傷つける

見た目と死

欲望と憧れ

終了

もうちょっとだけ、

そこから生まれる瞬間

あなたの考えは、おそらく

私たちは皆、ただ存在するだけではない。

高潔なイメージのように

しかし、外見や状態によって

心は死なない

その瞬間

物理的存在

そして突然、すべてが

消えることもあれば、頂点に達することもある。

生きること死ぬこと

生きるか死ぬか？

あ、すみません、それは質問ですか？

明らかに、自殺したことの無い人なんていないでしょう？

私たちは皆、生きることをやめてしまった

ある時点で誰もが例外なく

病的な喜びのように、私たちは考える。

私たちは死ぬ。

私たちは生きていく、そういうものだ

滑稽さの矛盾

出発

親愛なる友よ...私は遠くから書いている...あなたは持っていた

左...親愛なる友よ...

今夜、私の魂は...あなたのために苦しむ！

心からお詫び申し上げます。どうかお許しください

私、私の友人...

私の自由は空に消えた

あなたは連れて行かれた...

帰ってくるのが楽しみだ...とても平和な...

静寂、亡き人への道...

許された...最後の言葉...

中断

もし私の魂が私の中で蒸発してしまったら...

瓦礫しか残らない

ファンタジーとは程遠い秘密

新たな転覆から

無為...また別のプライベートな時間を...

であること

音、口の芯、

ソフトなタッチ、色

魅惑するひとつの夢

ユニークな瞬間

自暴自棄になり、洞察力に触発される、

距離も制限もない

窒息カットは想像を超える

この絵の中で、私は血と痛みを表現している。

意味によって赤く炎症を起こした、

なぞなぞではなく

現実、ビジョン。

私たちが互いに合流し、そして見るとき

一目でわかる信じ方

存在の承認と奨励、

混入され、反転され、鏡に映し出される。

私が感じるすべての悲しみの中で

怖がらずに、私は誰かのものでなければならない。

同情、狂気、情熱、そして純粹

鎖のない結び目の魂

絡み合い、そしてひとつになる。

ひとつの方向、ひとつの欲望

そして最終的には

何でもない

欠席

もし私があなただの世界に触れ、見ることができたら、

触れなければ不純になってしまう

少なくとも、私は自分の感性を変える

信じる

私の現実を超えている。

私の単純な悲しみ

すべての幸福と同じ

達成可能なものも不可能なものもある。

皮肉もなく、魔法のように

もしいつか、私に触ってと言ったら

あなたが私を見て、次のように感じる。

私は誰なのか、そして何なのか

私はあなたとともにいる。

火のついたマッチが燃える

私を包む痛み

すべてが燃えるとき

私は決して君を連れ去ったりはしなかった。

あなたが苦しんでいるのは

私はあなたのそばを離れなかった。

あなたを愛し、これからも愛し続ける

愛しているよ。